

平成 26 年度  
東日本大震災復興支援事業

# 東日本大震災復興支援事業 実施報告書



平成 27 年 3 月



公益社団法人 日本看護協会  
Japanese Nursing Association

## 目次

はじめに	1
平成 26 年度東日本大震災復興支援事業	3
Ⅰ. 事業の概要	5
Ⅱ. 事業の実施	5
1. 日本看護学会における学会参加支援	7
1) 概要	9
2) 目的	9
3) 支援対象	9
4) 対象領域と開催地	9
5) 実施内容	9
6) 募集方法	10
7) 参加者の決定と参加状況	10
8) 懇親会の開催	10
9) 特別企画「東日本大震災復興支援ブース～被災地の看護職は今～」の設置	11
10) アンケート結果	14
11) 評価	23
2. 在宅看護における交流集会「3.11 から今、そしてこれから」の開催	25
1) 概要	27
2) 目的	27
3) 開催場所と日時	27
4) テーマと実施内容	27
5) アンケート結果	28
6) 評価	35
3. 被災地域における看護職の実態調査	37
1) 概要	39
2) 目的	39
3) 対象	39
4) 期間	39
5) 方法	39
6) 倫理上の配慮	39
7) 回収状況	39
8) 結果	41
4. 保健師の実践力強化に向けた事例検討会定着化のための支援	45
1) 概要	47
2) 目的・目標	47
3) 対象	47
4) 事業実施期間	47

5) 実施内容	47
6) まとめ	49
<b>5. 原発避難地域の保健師活動人材育成支援</b>	<b>51</b>
1) 概要	53
2) 目的・目標	53
3) 対象	53
4) 実施内容	53
5) まとめ	54
<b>6. 東日本大震災災害支援金配分事業について</b>	<b>55</b>
1) 概要	57
2) 目的	57
3) 方法	57
4) 対象	57
5) 実施期間	57
6) 配分団体の決定	57
7) 事業予算の決算及び事業内容の概略について	57
8) 災害支援金配分事業 活動報告一覧	58
<b>Ⅲ. 東日本大震災復興支援事業の今後の課題</b>	<b>65</b>
<b>Ⅳ. おわりに</b>	<b>65</b>
<b>参考資料</b>	<b>67</b>
参考資料1 日本看護学会学術集会への参加支援アンケート用紙	69
参考資料2 東日本大震災復興支援事業交流集会アンケート用紙	71



## はじめに

多くの犠牲者を出した東日本大震災から4年が経ちました。現在も避難生活を続ける人々が、約23万人いる状況があり、被災地の復興は未だ道半ばです。

福島県原発周辺自治体では避難指示区域が「帰還困難」「居住制限」「避難指示解除準備」区域に再編され、一部に避難指示解除が出たものの、いまだ帰還の見通しが立たないエリアも多くあります。原発で汚染された土地への帰還は困難を極め、避難者の不安と故郷の喪失感は癒えることはありません。

日本看護協会の復興支援事業が4年目を経過し、被災地のニーズが変化していく中、私たちは中長期的な視点を持ち、被災地のニーズに寄り添う支援のあり方を見つめなおしていかなければなりません。

被災地では、多くの人が大災害での喪失—すなわち家族、住まい、思い出、仕事、離れ離れになった仲間など有形無形無数—を体験しました。自然の猛威から生じた衝撃的な恐怖体験による、将来への閉塞感や深い自信喪失感、無力感からくる罪悪感、個人差はあるものの短期間で収束するものではありません。いつまでもと決めつけず、時の流れを保障しながら、大切な人との関係性を無理に忘れるのではなく、何度でも思い出し、なつかしみ、自身の振る舞いを悔みつつ、同時に、その人が何を願うかを想像し続けることで関係性すべてを保存していけることが、自分の足で歩き出すプロセスなのかと考えています。

今年度も復興支援事業は、被災地の看護職と全国の看護職を「伝えて、つなぐ」ことをテーマに取り組んできました。被災地で脅威の体験をされてもなお、その地で踏ん張る看護職の皆さまに敬意を表するとともに、その活動を全国の看護職に発信し、共有し、看護職として生きがい、やりがいを持って働き続けていただけるよう支援いたしました。

来年度、震災から5年を経過することになりますが、復興支援は「伝えて、つなぐ」テーマに加え、中長期的なビジョンを持った取り組みが重要となります。時間の経過と共に変化する被災地のニーズを尊重し、被災地での皆さまの活動を風化させることなく、引き続き支援事業に取り組んでいきたいと思っています。

公益社団法人 日本看護協会  
常任理事 中板育美



# 平成 26 年度東日本大震災復興支援事業

---

---

---



## I. 事業の概要

東日本大震災・原子力発電所事故の被災地では、仮設・借上げ住宅等での避難生活が長期化し、二次的な健康被害も顕在化している。また、地域格差も生じており、被災者のニーズに合わせたケアの包括的かつ継続的な提供を図るためには、保健・医療・福祉の連携、看護提供体制の確立、看護職の人材確保等が強く求められている。

こうした現状や課題を受け、平成26年度も引き続き、被災地のニーズに即した復興支援を行った。まず、被災した看護職の教育支援として引き続き日本看護学会参加支援を行い、また、震災から3年が経過する中、被災地における看護職の実態や現状等を明らかにし、人材確保・定着対策も含めた政策提言や支援につなげるための現状調査を行った。

さらに、福島県相双地域の自治体等における保健師の人材育成の体制づくりの一環として、事例検討会の定着化を図る支援を行うと共に、統括保健師の配置推進に向けた会議等の開催を通して、統括的立場にある保健師同志が横のつながりをもちながら配置獲得を目指すための支援に取り組んだ。

### 平成26年度東日本大震災復興支援事業の目的

1. 被災地のニーズに即した復興支援の展開
2. 被災地における看護職の人材確保および人材育成

## II. 事業の実施

平成26年度は、被災地看護職の教育支援として「日本看護学会における学会参加支援」、また被災地看護職の人材確保および人材育成として「原発避難地域の保健師活動の人材育成支援」、「被災地域における看護職の実態調査」を実施した。それぞれの事業については、次項で報告する。



## 1.日本看護学会における学会参加支援

---

---

---



## 1) 概要

被災した看護職の教育支援として、平成 26 年度も日本看護学会学術集会への参加支援事業を行った。日本看護学会学術集会 10 領域の中から、「ヘルスプロモーション」、「在宅看護」、「精神看護」の 3 領域への参加を募り、応募のあった岩手・宮城・福島県の看護職に対し参加費用等の支援を行った。

各会場には東日本大震災復興支援ブースを開設し、参加者が自らの被災体験や看護活動について発信する機会を設け、被災地の現状を伝えることができた。また参加者同士の交流を図ることができた。

また、山形での「在宅看護」においては交流集会として「3.11 から今、そしてこれから」を開催した。

## 2) 目的

- 1) 日本看護学会に参加し最新の看護の動向にふれることで、新たな看護への魅力を見出すことができる。
- 2) 学会参加や発表を行うことにより、研究意欲の向上を図ることができる。
- 3) 看護職の取り組みについて来場者へ広く周知することで、被災地の情報発信ができる。
- 4) 被災地からの参加者同士で意見交換することにより、新たな知見が得られ、今後の活力につなげることができる。

## 3) 支援対象

岩手県、宮城県、福島県の沿岸部 39 地域の医療機関等に所属している（または、していた）看護職約 60 名（本会の会員・非会員は問わない）。

岩手県	洋野町、久慈市、野田村、普代村、田野畑村、岩泉町、宮古市、山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市
宮城県	気仙沼市、南三陸町、石巻市、女川町、東松島市、松島町、利府町、塩釜市、七が浜町、多賀城市、宮城野区、若林区、名取市、岩沼市、亘理町、山元町
福島県	新地町、相馬市、南相馬市、浪江町、双葉町、大熊町、富岡町、楡葉町、広野町、いわき市、飯館村

## 4) 対象領域と開催地

8月 28日	～	29日	ヘルスプロモーション	( 熊本県 熊本市 )
10月 2日	～	3日	在宅看護	( 山形県 山形市 )
10月 16日	～	17日	精神看護	( 長野県 松本市 )

## 5) 実施内容

(1) 支援内容：日本看護学会学術集会への参加に係る費用の支援を行った。

- ① 学会参加費 無料
- ② 交通費 県及び開催地ごとに定額支給
- ③ 宿泊費 定額支給 (¥11,000) とし 1 泊分のみ支給
- ④ 雑費 定額支給 ( ¥3,000) 起点駅までの交通費として

## 【応募条件】

以下①～⑤に挙げる条件をすべて満たすことを応募の要件とした。

- ①岩手県、宮城県、福島県の沿岸部地域(上記参照)にある医療機関等に所属している  
(または所属していた)保健師、助産師、看護師、准看護師。(本会の会員・非会員は問わない)
- ②学術集会に2日間とも参加できること。
- ③学術集会1日目に開催する懇親会に参加する。在宅看護の参加者は2日目に行われる交流集会にも参加する。
- ④学術集会で開設するブースにおいて、震災をテーマとした自分自身の看護実践発表等を発表できること。
- ⑤学術集会に参加した結果を、所属部署、県看護協会等に報告できること。

## 6) 募集方法

- ・沿岸地域医療機関等施設へ郵送にて案内を送付した。  
(岩手県：38カ所、宮城県：92カ所、福島県：59カ所、計189カ所)
- ・本会公式ホームページへも募集案内を掲載した。
- ・募集期間  
2014年5月26日～6月13日

## 7) 参加者の決定と参加状況

- ・募集定員60名に対し、6月13日の募集締め切りの時点で、33名と定員の約半数であった。そこで岩手・宮城・福島県看護協会に依頼、また施設へ直接連絡を行い、6月末まで追加募集を行った結果、61名の申し込みとなった。
- ・領域別では、ヘルスプロモーション21名、在宅看護17名、精神看護12名であった。
- ・参加辞退等により、学会に参加したのは50名であった。

領域	参加人数(県・人数)				職種			備考
	岩手	宮城	福島	合計	保健師	助産師	看護師 (准看護師)	参加辞退
ヘルスプロモーション	3	16	2	21	8	7	6 (0)	2(宮城)
在宅看護	4	10	3	17	1	0	16 (0)	2(宮城)
精神看護	4	6	2	12	1	0	10 (1)	7 (宮城6・福島1)
合計	11	32	7	50	10	7	32 (1)	11

## 8) 懇親会の開催

- ・各学術集会1日目の昼食時に、約1時間の懇親会を開催した。
- ・参加者間、及び開催県看護協会との情報交換及び課題を共有した。
- ・参加者からは、以下のような感想が聞かれた。  
「普段職場では被災体験を話す機会が少なく、懇親会の場で話をすることで振り返りができた」  
「お互いの状況を知ること、今後の活力につながった」

「次回は学会で発表を行いたい」

「リフレッシュできた」 等

## 9) 特別企画「東日本大震災復興支援ブース～被災地の看護職は今～」の設置

- ・被災3県の看護協会における被災後の看護活動および、当会における東日本大震災復興支援事業についてのパネルを作成し、展示を行った。資料は、岩手・宮城・福島県看護協会、当会が各々作成した。
- ・参加者は交代で自身の看護活動についてのテーマで10分程度の発表を行った。
- ・宮城県看護協会作成の映像「震災の記録」を会場に設置のPCで流した。
- ・被災地の看護職に向けてメッセージ箱を設置した。

### ■実践発表のテーマ

テーマ	勤務先名	決定開催地
陸前高田市における保健師の活動について	陸前高田市役所	ヘルスプロモーション(熊本)
3.11後の看護について 地域連携又は自院の看護全般について	松島病院	ヘルスプロモーション(熊本)
		在宅看護(山形)
		精神看護(長野)
あの時私たちはどう動いたか？そして今	医療法人 勝久会 介護老人保健施設松原苑	在宅看護(山形)
この地域でその人らしく生活するための支援 -急性期病院での在宅診療部活動-	南相馬市立総合病院	在宅看護(山形)
緩和ケア病棟における災害時の看護ケアの工夫 について(保湿・吸引・食事の工夫)	宮城県立がんセンター	在宅看護(山形)
久慈医療圏における支援活動	岩手県立久慈病院	在宅看護(山形)
災害時の在宅患者との関わり。 災害時の看護師の活動	塩釜市立病院	在宅看護(山形)
災害時の病院における看護師の活動		ヘルスプロモーション(熊本)
在宅看護	仙台東脳神経外科病院	在宅看護(山形)
私が看護師を続ける理由	福島労災病院	精神看護(長野)
震災により活性化した多職種連携 ～NSTの立ち上げを経験して今伝えたいこと～	気仙沼市立病院	ヘルスプロモーション(熊本)
震災を経験に病院が取り組んだこと	宮古第一病院	精神看護(長野)
震災後の訪問看護師としての取り組み 「訪問看護師だからできること」	ふれあいおおつち訪問看護ステーション	在宅看護(山形)
震災後呼吸器病棟での患者との関わりから見えた課題	宮城県立がんセンター	ヘルスプロモーション(熊本)
震災対応保健活動について	宮城県気仙沼保健福祉事務所	ヘルスプロモーション(熊本)
震災直後から現在まで～看護教員の立場より～	松村看護専門学校	精神看護(長野)
震災直後の活動と被災地の今	宮城県看護協会 ことた訪問看護ステーション	在宅看護(山形)
仙台市における被災者への健康支援について	仙台市若林区保健福祉センター	ヘルスプロモーション(熊本)

テーマ	勤務先名	決定開催地
相馬地区における看護学校の課題	相馬看護専門学校	在宅看護(山形)
相馬地方の看護専門学校における震災影響とその後の状況		ヘルスプロモーション(熊本)
大震災直後に被災地の病院に入職して	希望会 希望が丘病院	精神看護(長野)
東日本大震災からの学び ～手術室・中央材料室の災害・感染対策～	スズキ記念病院	ヘルスプロモーション(熊本)
東日本大震災から学ぶ産科外来の対応		
東日本大震災から学んだ患者・新生児の管理		
東日本大震災における看護活動と復興状況について	東北薬科大学病院	在宅看護(山形) 精神看護(長野)
東日本大震災を経験して	医療法人 海那会 鹿島記念病院	精神看護(長野)
東日本大震災後の看護活動を経て	公立志津川病院	在宅看護(山形)
当院における震災時の状況と取り組みについて	宮城厚生協会 坂総合病院	ヘルスプロモーション(熊本)
震災後3年 母子保健ネットワークの活動について		
被災者健康サポート事業における被災地の活動について	福島県看護協会	ヘルスプロモーション(熊本)
被災地における3年の歩み～コミュニティづくり、地域の絆づくりの今～	宮城県東部保健福祉事務所	ヘルスプロモーション(熊本) 精神看護(長野)
被災地における人と人とのつながり協働によるポピュレーションアプローチ ～AIDS文化フォーラム in 陸前高田を通じて～	岩手県大船渡保健所	ヘルスプロモーション(熊本)
被災地の看護師として今出来ること	宮城精神保健福祉協会 みやぎ心のケアセンター 地域支援課	精神看護(長野)
被災直後避難所に行けず全壊した家ですごく精神疾患の方の支援を通して	公益社団法人 宮城厚生協会 つくし訪問看護ステーション	在宅看護(山形)

### ○来場者数

領域	来場者数 (延べ数)	設置したカードに寄せられたメッセージ
ヘルスプロモーション	360名	3通
在宅看護	600名	17通
精神看護	400名	26通
合計	1360名	46通

### ○来場者の様子

- ・立ち見がでるほど多くの方が来場されたことから、被災地の看護活動についての関心は高いことがうかがえた。
- ・傾きながら話しを聞く人が多く、発表内容に共感している様子だった。
- ・学生が多く来場された。

## ○参加者（被災地看護職）の様子

- ・当時のことを振り返り、語る中で、声を詰まらせ、涙をこらえる場面もあったが自分の言葉で最後まで伝えようとする強い意志が感じられた。
- ・「災害時の対応を考え直すいい機会になった」、「自分の看護の実践が伝えられる場は必要だと思った」などの感想が寄せられた。
- ・反面、「今までの経過を10分で話すのは難しい」、「震災がだいぶ以前のことであるかのように感じ温度差を感じた」という意見もあった。

## ■ヘルスプロモーション



## ■在宅看護



## ■精神看護



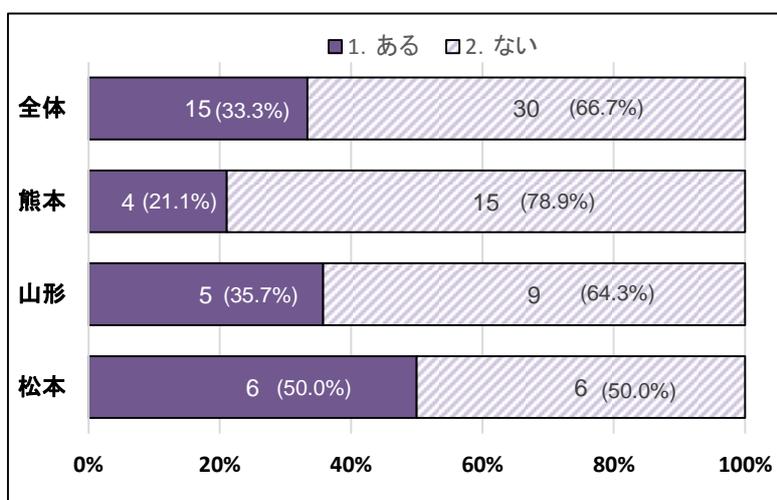
## 10) アンケート結果

参加支援事業の参加者に対し、学術集会終了時にアンケートを実施した。47名の参加者から回答が得られた。

### 東日本大震災復興支援事業 日本看護学会への参加支援 アンケート 《集計結果》

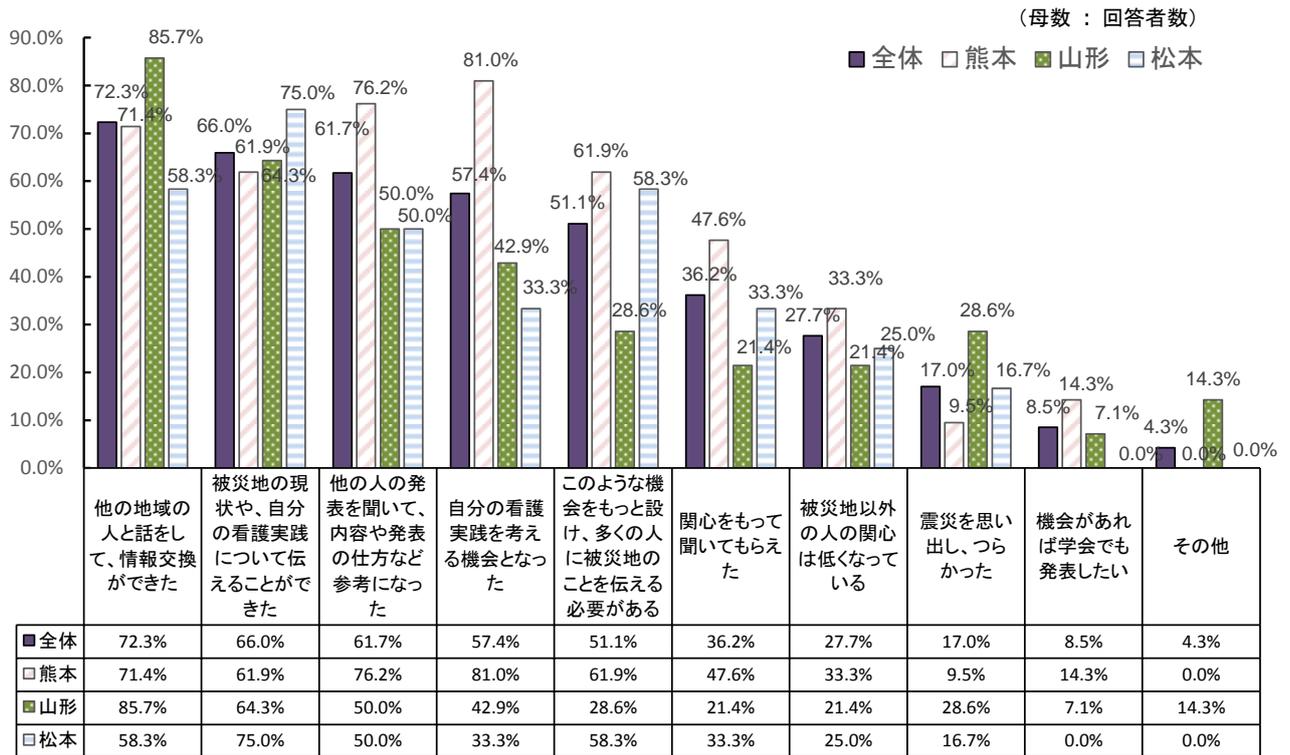
■ 回答率：94.0% 47名（回答者）／ 50名（参加者）

Q1. これまで日本看護学会学術集会に参加したことはありますか？

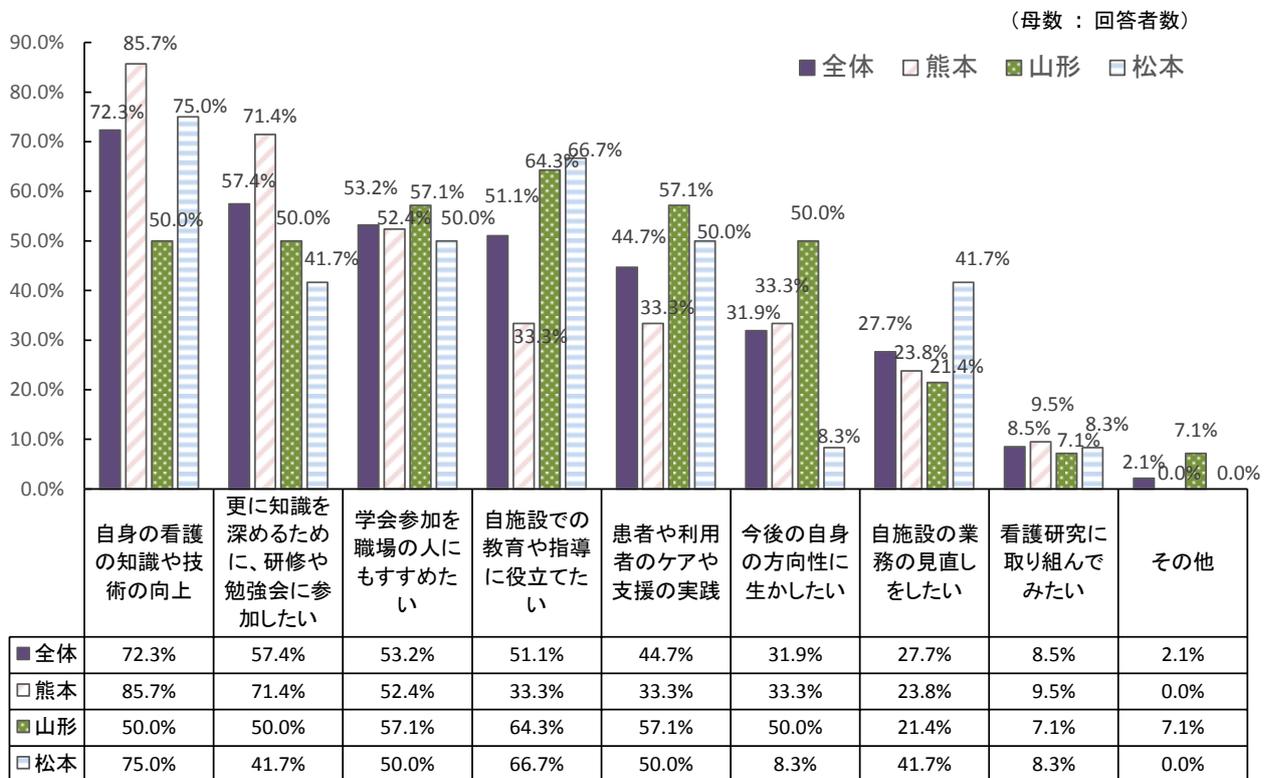


参加領域	参加人数	回答者	ない		ある		→	県内	県外
			人数	%	人数	%			
熊本	21	21	15	78.9%	4	21.1%	→	1	3
山形	17	14	9	64.3%	5	35.7%	→	3	2
松本	12	12	6	50.0%	6	50.0%	→		6
全体	50	47	30	66.7%	15	33.3%		4	11

## Q2. 東日本復興支援ブースの発表について(複数回答可)



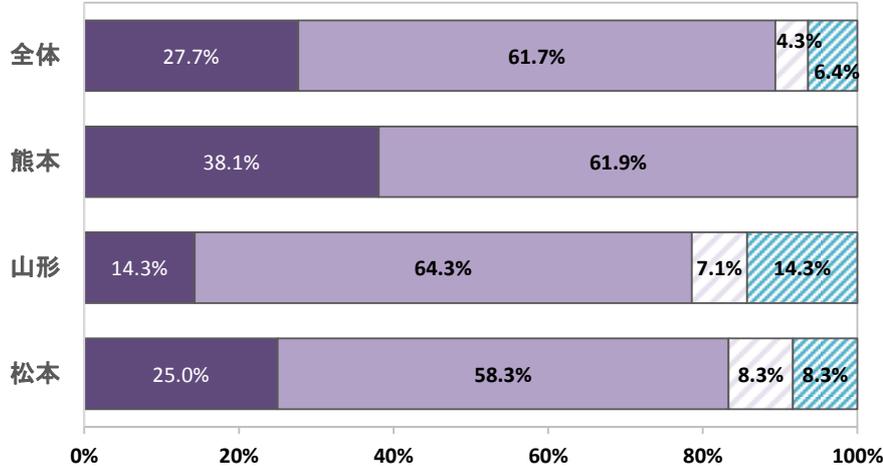
## Q3. 学会で得られた知識を、今後どのように生かしていきたいですか?(複数回答可)



## Q 4. 学会に参加して、どのように感じましたか？

### 4-1. 最新の情報が得られた

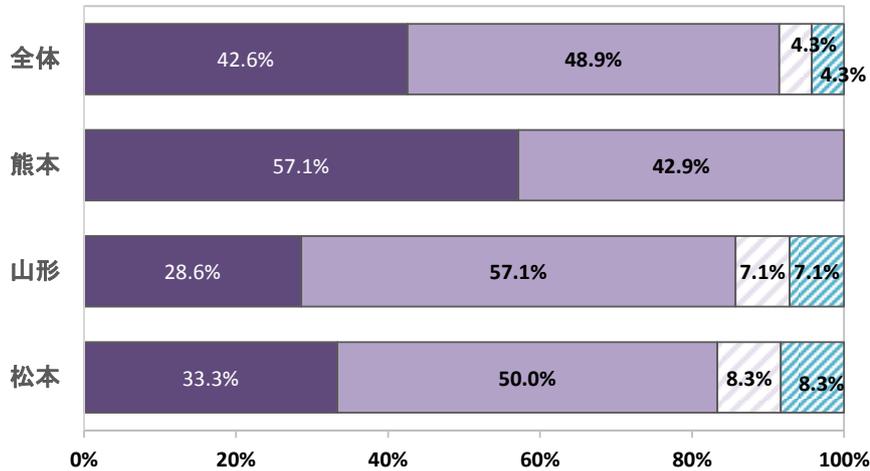
■ 4.とてもそう思う ■ 3.まあそう思う □ 2.あまり思わない ■ 1.全く思わない □ 無回答



	4.とてもそう思う		3.まあそう思う		2.あまり思わない		1.全く思わない		無回答		計 人数
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
全体	13	(27.7%)	29	(61.7%)	2	(4.3%)	0	(0.0%)	3	(6.4%)	47
熊本	8	(38.1%)	13	(61.9%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	21
山形	2	(14.3%)	9	(64.3%)	1	(7.1%)	0	(0.0%)	2	(14.3%)	14
松本	3	(25.0%)	7	(58.3%)	1	(8.3%)	0	(0.0%)	1	(8.3%)	12

### 4-2. 興味のある内容を聞くことができた

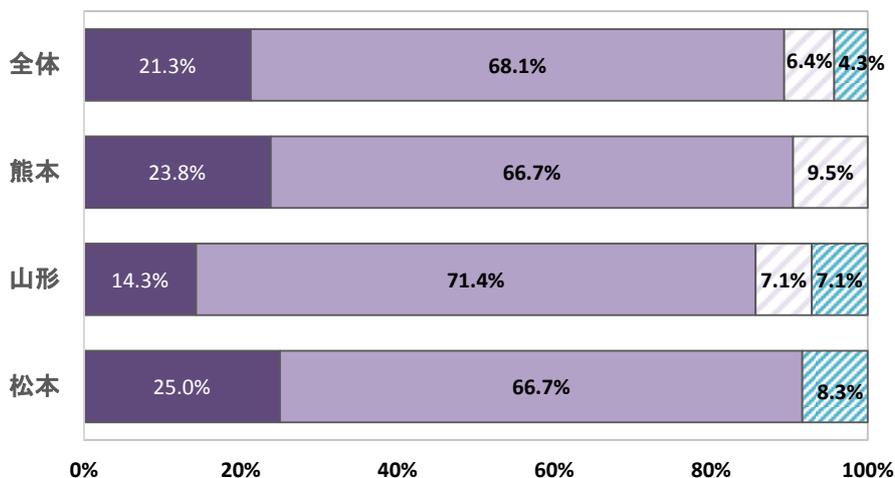
■ 4.とてもそう思う ■ 3.まあそう思う □ 2.あまり思わない ■ 1.全く思わない □ 無回答



	4.とてもそう思う		3.まあそう思う		2.あまり思わない		1.全く思わない		無回答		計 人数
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
全体	20	(42.6%)	23	(48.9%)	2	(4.3%)	0	(0.0%)	2	(4.3%)	47
熊本	12	(57.1%)	9	(42.9%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	21
山形	4	(28.6%)	8	(57.1%)	1	(7.1%)	0	(0.0%)	1	(7.1%)	14
松本	4	(33.3%)	6	(50.0%)	1	(8.3%)	0	(0.0%)	1	(8.3%)	12

#### 4-3. スキルアップにつながった

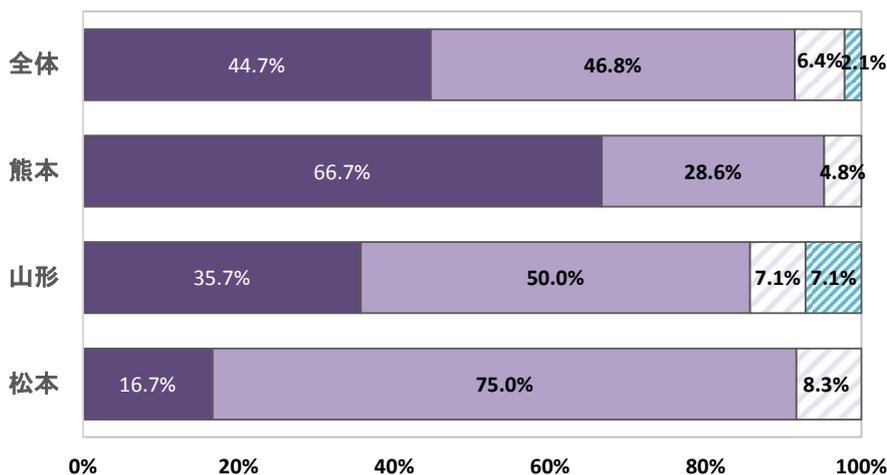
■ 4.とてもそう思う ■ 3.まあそう思う □ 2.あまり思わない ■ 1.全く思わない □ 無回答



	4.とてもそう思う		3.まあそう思う		2.あまり思わない		1.全く思わない		無回答		計 人数
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
全体	10	(21.3%)	33	(70.2%)	3	(6.4%)	0	(0.0%)	1	(2.1%)	47
熊本	5	(23.8%)	14	(66.7%)	2	(9.5%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	21
山形	2	(14.3%)	10	(71.4%)	1	(7.1%)	0	(0.0%)	1	(7.1%)	14
松本	3	(25.0%)	9	(75.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	12

#### 4-4. 日頃の自分の活動を振り返ることができた

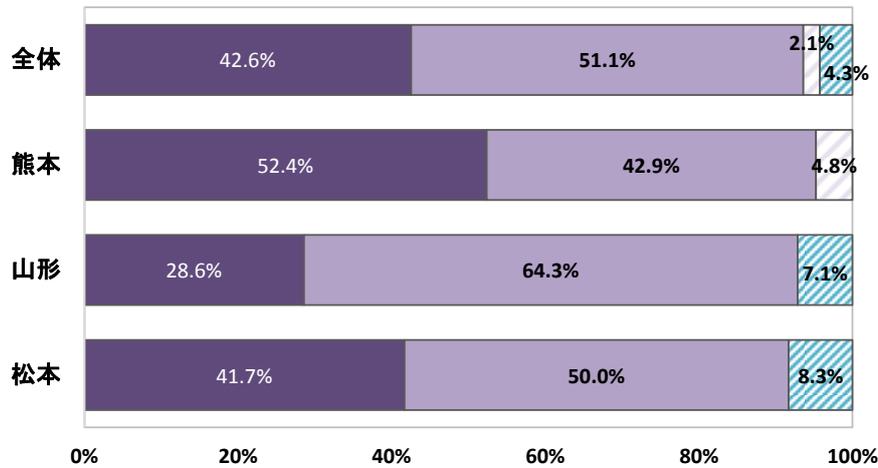
■ 4.とてもそう思う ■ 3.まあそう思う □ 2.あまり思わない ■ 1.全く思わない □ 無回答



	4.とてもそう思う		3.まあそう思う		2.あまり思わない		1.全く思わない		無回答		計 人数
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
全体	21	(44.7%)	22	(46.8%)	3	(6.4%)	0	(0.0%)	1	(2.1%)	47
熊本	14	(66.7%)	6	(28.6%)	1	(4.8%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	21
山形	5	(35.7%)	7	(50.0%)	1	(7.1%)	0	(0.0%)	1	(7.1%)	14
松本	2	(16.7%)	9	(75.0%)	1	(8.3%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	12

#### 4-5. 活動の視野が広がった

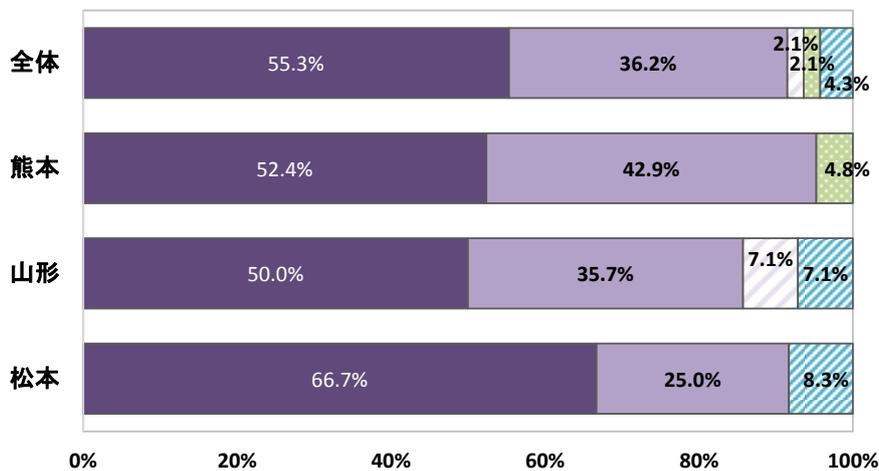
■ 4.とてもそう思う ■ 3.まあそう思う □ 2.あまり思わない ■ 1.全く思わない □ 無回答



	4.とてもそう思う		3.まあそう思う		2.あまり思わない		1.全く思わない		無回答		計 人数
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
全体	20	(42.6%)	24	(51.1%)	1	(2.1%)	0	(0.0%)	2	(4.3%)	47
熊本	11	(52.4%)	9	(42.9%)	1	(4.8%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	21
山形	4	(28.6%)	9	(64.3%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	1	(7.1%)	14
松本	5	(41.7%)	6	(50.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	1	(8.3%)	12

#### 4-6. 自施設以外の人と話ができて、情報が得られた

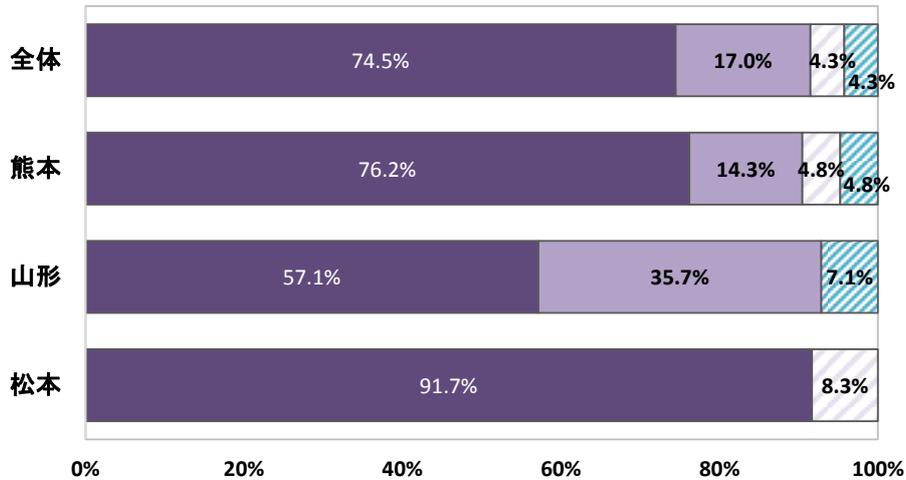
■ 4.とてもそう思う ■ 3.まあそう思う □ 2.あまり思わない ■ 1.全く思わない □ 無回答



	4.とてもそう思う		3.まあそう思う		2.あまり思わない		1.全く思わない		無回答		計 人数
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
全体	26	(55.3%)	17	(36.2%)	1	(2.1%)	1	(2.1%)	2	(4.3%)	47
熊本	11	(52.4%)	9	(42.9%)	0	(0.0%)	1	(4.8%)	0	(0.0%)	21
山形	7	(50.0%)	5	(35.7%)	1	(7.1%)	0	(0.0%)	1	(7.1%)	14
松本	8	(66.7%)	3	(25.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	1	(8.3%)	12

#### 4-7. 違う土地に来て、気分転換になった

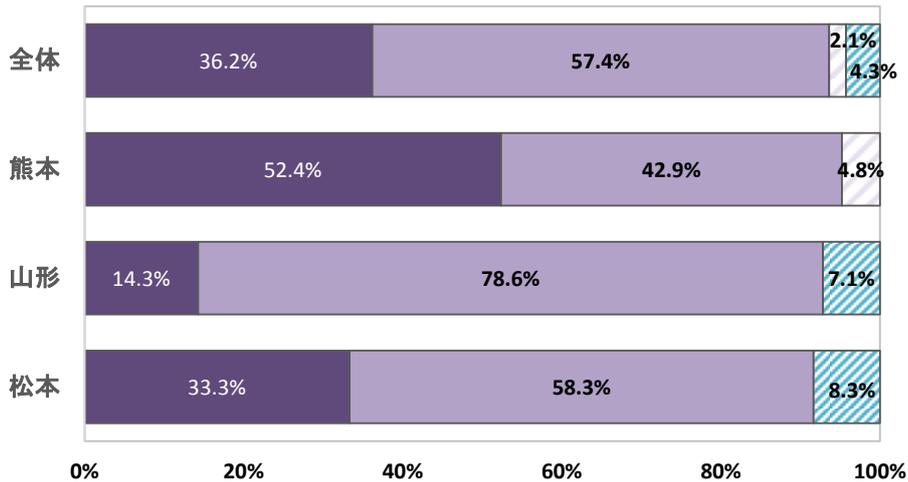
■ 4.とてもそう思う ■ 3.まあそう思う □ 2.あまり思わない ■ 1.全く思わない □ 無回答



	4.とてもそう思う		3.まあそう思う		2.あまり思わない		1.全く思わない		無回答		計 人数
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
全体	35	(74.5%)	8	(17.0%)	2	(4.3%)	0	(0.0%)	2	(4.3%)	47
熊本	16	(80.0%)	3	(15.0%)	1	(5.0%)	0	(0.0%)	1	(5.0%)	21
山形	8	(57.1%)	5	(35.7%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	1	(7.1%)	14
松本	11	(91.7%)	0	(0.0%)	1	(8.3%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	12

#### 4-8. 仕事に対して意欲がわいた

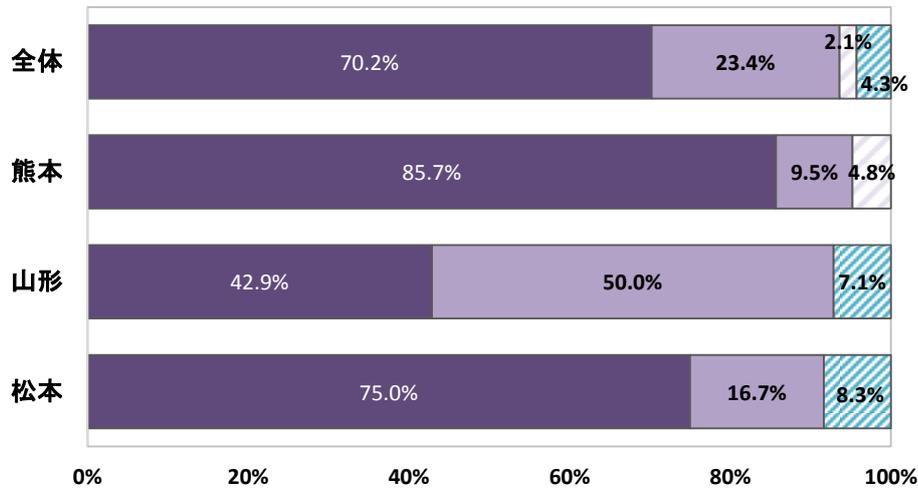
■ 4.とてもそう思う ■ 3.まあそう思う □ 2.あまり思わない ■ 1.全く思わない □ 無回答



	4.とてもそう思う		3.まあそう思う		2.あまり思わない		1.全く思わない		無回答		計 人数
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
全体	17	(36.2%)	27	(57.4%)	1	(2.1%)	0	(0.0%)	2	(4.3%)	47
熊本	11	(52.4%)	9	(42.9%)	1	(4.8%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	21
山形	2	(14.3%)	11	(78.6%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	1	(7.1%)	14
松本	4	(33.3%)	7	(58.3%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	1	(8.3%)	12

#### 4-9. 看護職として学び続けることが必要だ

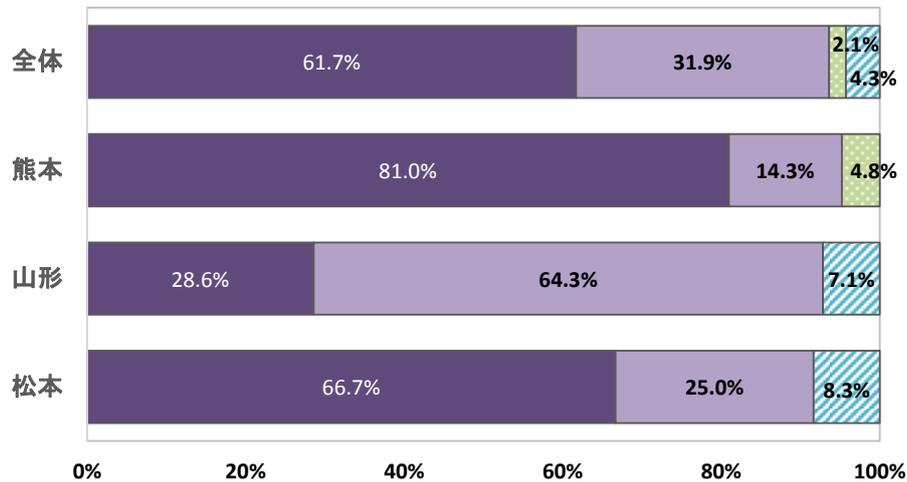
■ 4.とてもそう思う ■ 3.まあそう思う □ 2.あまり思わない ■ 1.全く思わない □ 無回答



	4.とてもそう思う		3.まあそう思う		2.あまり思わない		1.全く思わない		無回答		計 人数
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
全体	33	(70.2%)	11	(23.4%)	1	(2.1%)	0	(0.0%)	2	(4.3%)	47
熊本	18	(85.7%)	2	(9.5%)	1	(4.8%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	21
山形	6	(42.9%)	7	(50.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	1	(7.1%)	14
松本	9	(75.0%)	2	(16.7%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	1	(8.3%)	12

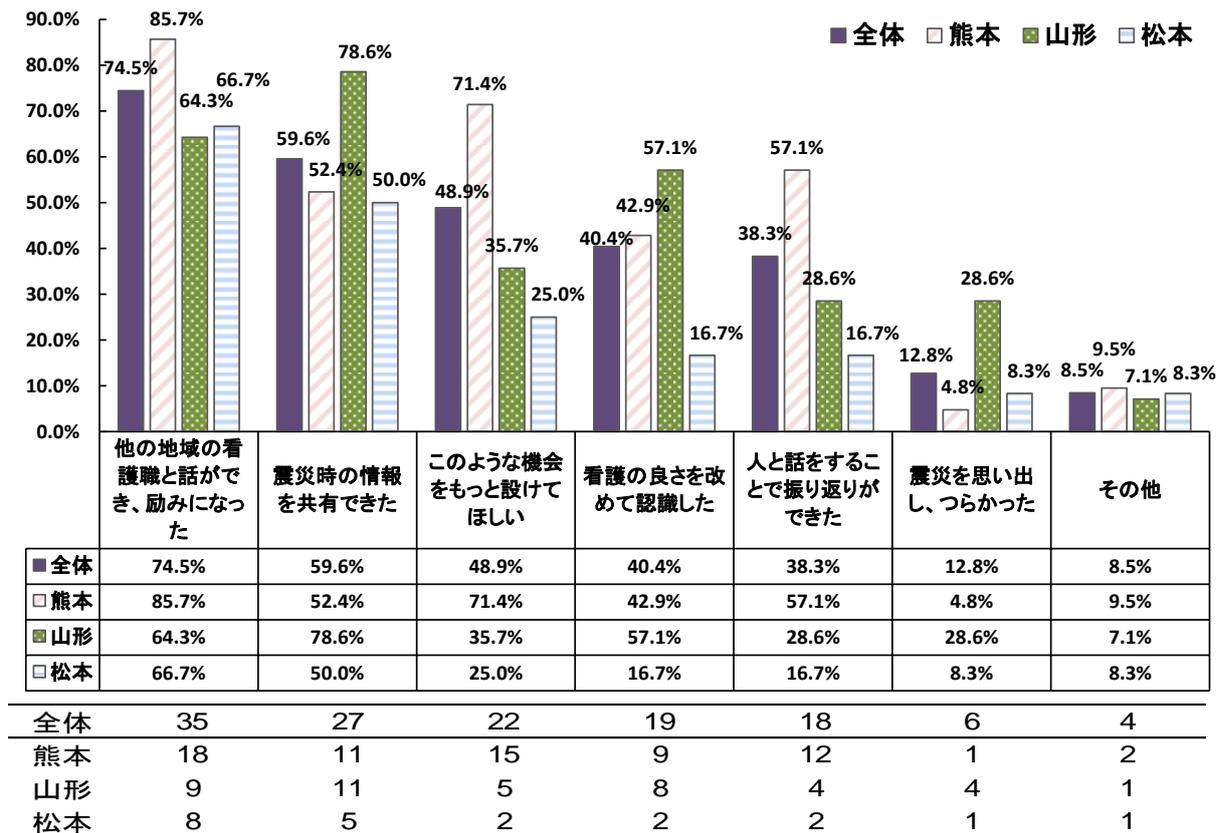
#### 4-10. 今後も学会への参加支援をしてほしい

■ 4.とてもそう思う ■ 3.まあそう思う □ 2.あまり思わない ■ 1.全く思わない □ 無回答



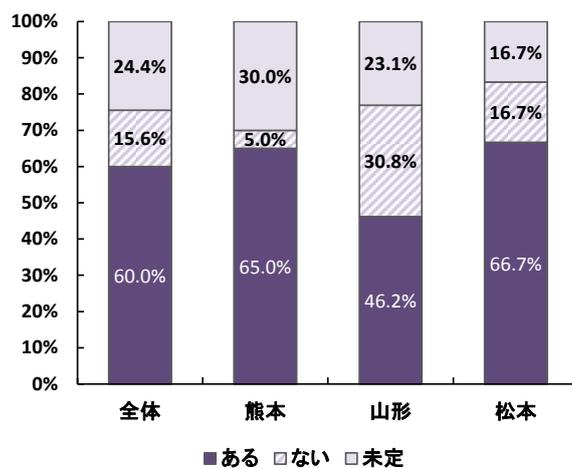
	4.とてもそう思う		3.まあそう思う		2.あまり思わない		1.全く思わない		無回答		計 人数
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
全体	29	(61.7%)	15	(31.9%)	0	(0.0%)	1	(2.1%)	2	(4.3%)	47
熊本	17	(81.0%)	3	(14.3%)	0	(0.0%)	1	(4.8%)	0	(0.0%)	21
山形	4	(28.6%)	9	(64.3%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	1	(7.1%)	14
松本	8	(66.7%)	3	(25.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	1	(8.3%)	12

Q5. 懇親会に参加して、どのように感じましたか？



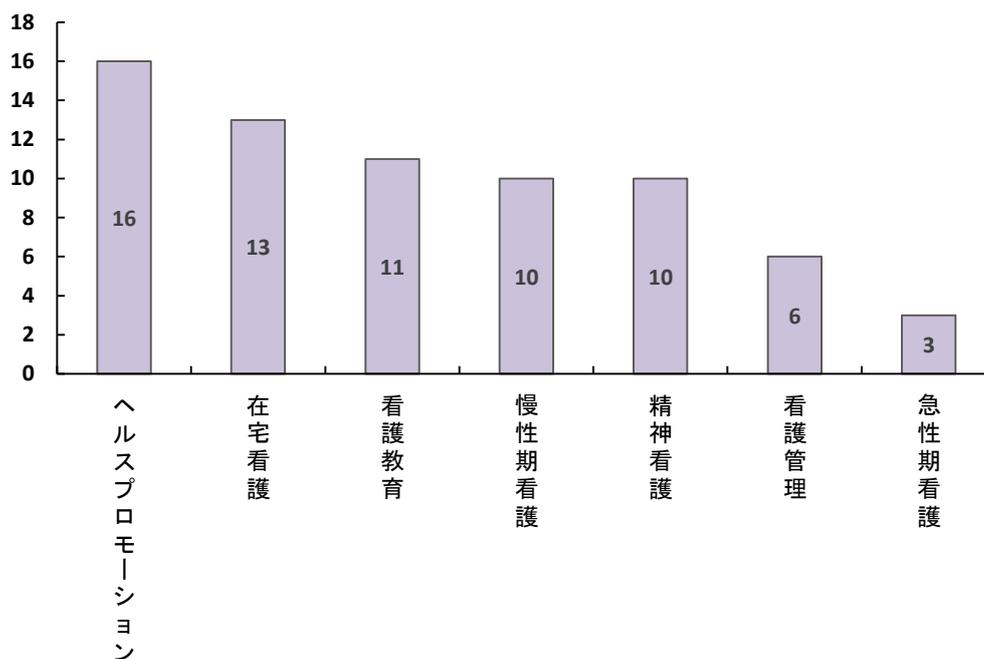
・他の職種の方と話ができて、皆さんも大変な思いで震災に向き合っていると思った。  
 ・初対面の方とも色々話ができて、普段お会いする事のできない方々にお会いできたのはうれしかったです。

Q6. 今回の学会参加について、後日、自施設等で報告や伝達する機会がありますか？



	ある	ない	未定	計
全体	27	7	11	45
熊本	13	1	6	20
山形	6	4	3	13
松本	8	2	2	12

**Q 7. 今後参加支援をしてほしい日本看護学会の領域はありますか？(複数回答可)**



	全体	熊本	山形	松本
ヘルスプロモーション	16	13	0	3
在宅看護	13	7	4	2
看護教育	11	4	4	3
慢性期看護	10	3	3	4
精神看護	10	2	3	5
看護管理	6	1	3	2
急性期看護	3	2	0	1

**Q 8. 今後、日本看護協会や復興支援事業に期待することがありましたらご記入下さい。**

- 被災地のことを忘れずにいてくださることがとても「力」になります。前に向かって頑張ります。
- 非常に勉強になりました。
- 今後も身近に感じられる様、スキルアップできる様、研究の機会や支援を頂きたいです。
- ネットワーク活動など、活動への資金援助。
- とても参考になる内容の話しも聞く事ができ、知識が広まりました。
- 今回参加させていただき本当に良かったです。ありがとうございました。
- たくさんの学びが得られました。今後の活動へ、活かして行きたいと思います。
- 細く長くで良いので続けてほしい。
- 災害の記憶が薄れていく中で、災害時の対応を考え直す、いい機会になりました。
- 被災地はまだまだ復興が進んでいません。被災地で懸命にがんばっているNs達をばげまし勇気づけるために、困難な状況を共有できる機会をこれからも継続していただきたいです。
- 自分の看護の実践が伝えられる場は必要だと思います。

## 11) 評価

- ・被災地の看護職の学術集会参加へのニーズは高く、継続的な支援が望まれていることが分かった。
- ・看護実践発表ブースや懇親会では、参加者同士の交流や情報交換も図れていた。
- ・本事業に参加した被災地の看護職からも、今回、自身で情報を発信したことで、自分自身の看護を振り返ることができ、今後の看護活動の活力にあるという声が多く寄せられた。
- ・今回初めての学術集会参加だった参加者が約3分の2おり、「今後も参加したい」という意見も寄せられた。学術集会等の学会参加への意識向上や教育的な支援につながった。
- ・全国の看護職に向け、被災地でも看護活動の成果や、現状を発信することの意義は大きいと考えられ、引き続き、本事業を継続していく必要があると考えられた。



## **2. 日本看護学会-学術集会-在宅看護における 交流集会「3.11 から今、そしてこれから」の開催**

---

---



## 1) 概要

第45回日本看護学会-学術集会-在宅看護において、東日本大震災復興支援事業として、交流集会「3.11 から今、そしてこれから」を開催した。被災地看護職の活動や、被災者を受け入れている地域の看護職の活動について実践報告を行い、参加者との意見交換の場とした。

## 2) 目的

現在も支援を要する東日本大震災被災者が、在宅で暮らし続ける上での課題を共有し、看護職が連携・協働した今後の被災者支援のあり方を検討する。

## 3) 開催場所と日時

- 1)開催場所 : 山形テルサ アプローズ(定員 132名)  
山形県山形市双葉町 1-2-3
- 2)開催日時 : 10月3日(金)12:15~13:45

## 4) テーマと実施内容

- 1) テーマ : 3.11 から今—そしてこれから—
- 2) 実施内容  
座長 : 中板育美 (日本看護協会 常任理事)、大竹久子 (山形県看護協会 常任理事)  
実践発表者 4名

公益社団法人山形県看護協会 常任理事 大竹 久子氏	被災者に向けた山形県看護協会の取り組み
宮城県 有限会社あおい 代表取締役 小野 久恵氏	大災害時における要介護者の自宅避難生活 支援ネットワークの構築
鶴岡市立荘内病院総合相談員 (前看護部長) 阿部 恵子氏	仮設住宅におけるボランティア活動 被災地ボランティア
岩手県沿岸広域振興局保健福祉環境部 大船渡保健福祉環境センター 保健課課長 花崎 洋子氏	大規模災害被災後の保健師の役割
公益社団法人日本看護協会 常任理事 中板 育美	「3.11 から今—そして、これから」まとめ

被災地で活動する看護職4名の方による、被災してから今日に至るまでの看護実践発表を行った。150名規模の会場が満員になるほどの参加者が集まり、皆熱心に話を聞いている姿が見られた。一般参加者からも、「被災地の現状とその中での具体的な看護実践活動を知ることができた。」「自らの看護を振り返るとともに、今後の被災地支援について改めて考える機会になった。」という声があった。被災地の現状について、参加者の方々と情報を共有することができ、また今後の被災地支援のあり方について、考える機会となった。

## 5) アンケート結果

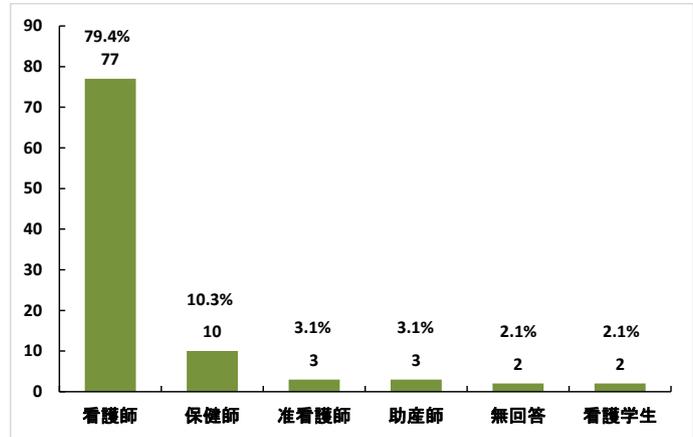
参加者：133名（関係者のぞく）

アンケート回収：97枚（72.9%）

●あなた自身についてお聞かせ下さい。

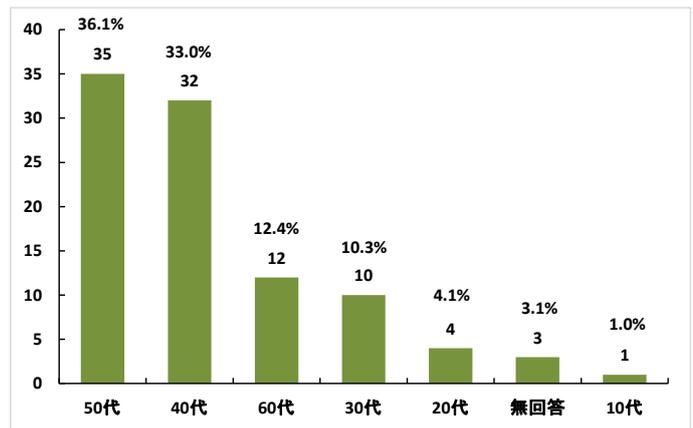
・職種

職種	人数	%
看護師	77	79.4%
保健師	10	10.3%
准看護師	3	3.1%
助産師	3	3.1%
無回答	2	2.1%
看護学生	2	2.1%
計	97	100.0%

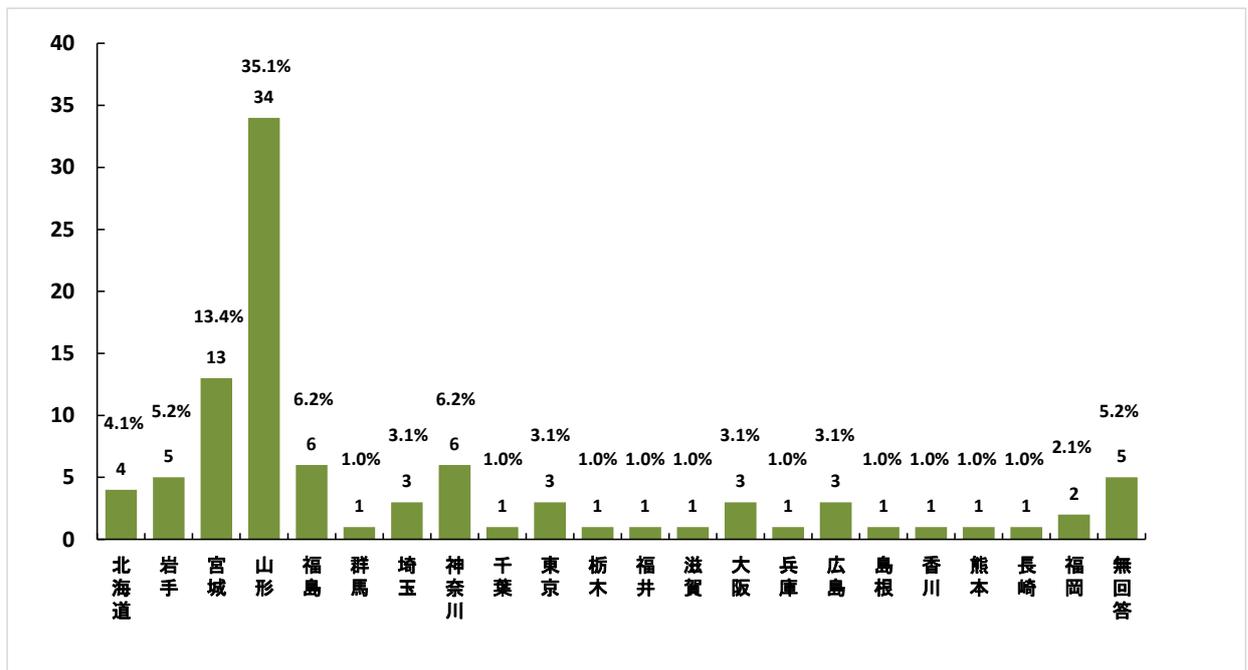


・年齢

年齢	人数	%
50代	35	36.1%
40代	32	33.0%
60代	12	12.4%
30代	10	10.3%
20代	4	4.1%
無回答	3	3.1%
10代	1	1.0%
計	97	100.0%

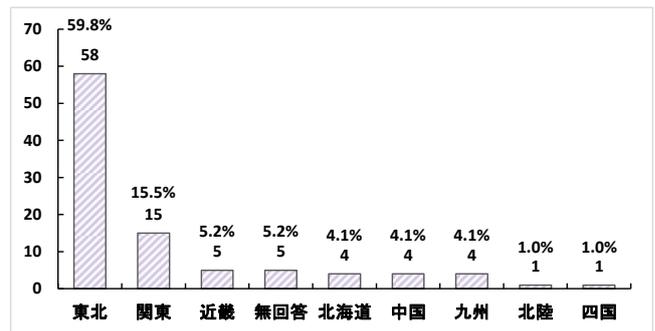


・現在勤務している所属先の都道府県

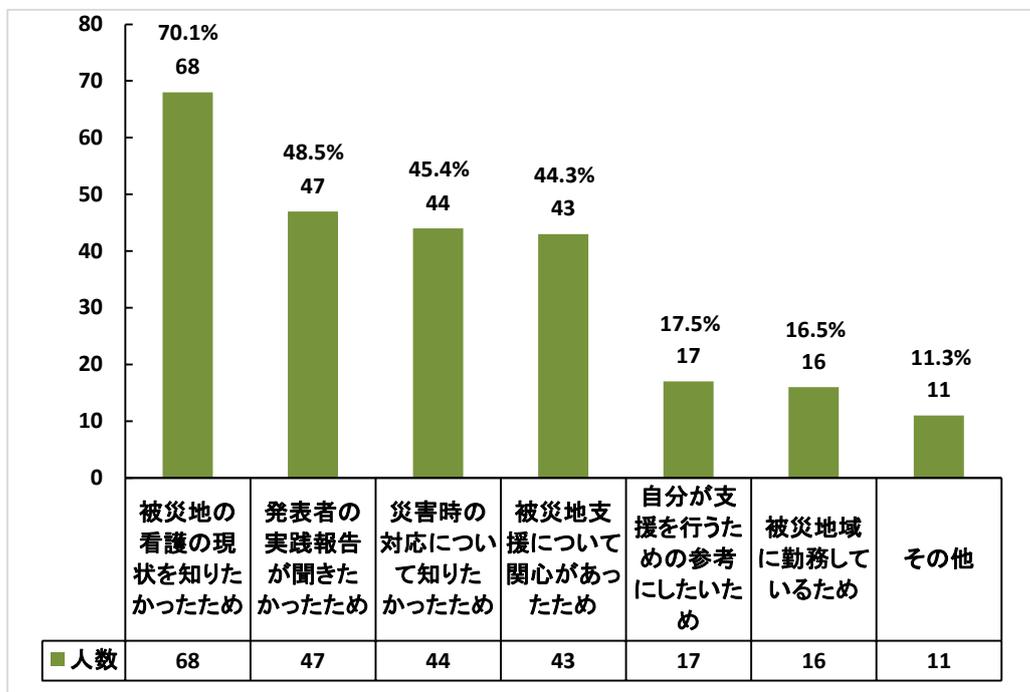


	都道府県	人数	%	
北海道(4)	北海道	4	4.1%	
	東北(58)	岩手	5	5.2%
		宮城	13	13.4%
		山形	34	35.1%
		福島	6	6.2%
関東(15)	群馬	1	1.0%	
	埼玉	3	3.1%	
	神奈川	6	6.2%	
	千葉	1	1.0%	
	東京	3	3.1%	
	栃木	1	1.0%	
	北陸(1)	福井	1	1.0%
近畿(5)	滋賀	1	1.0%	
	大阪	3	3.1%	
	兵庫	1	1.0%	
中国(4)	広島	3	3.1%	
	島根	1	1.0%	
四国(1)	香川	1	1.0%	
九州(4)	熊本	1	1.0%	
	長崎	1	1.0%	
	福岡	2	2.1%	
無回答(5)	無回答	5	5.2%	
	計	97	100.0%	

	地域別	人数計	%
⇒	東北	58	59.8%
	関東	15	15.5%
	近畿	5	5.2%
	無回答	5	5.2%
	北海道	4	4.1%
	中国	4	4.1%
	九州	4	4.1%
	北陸	1	1.0%
	四国	1	1.0%
		計	97

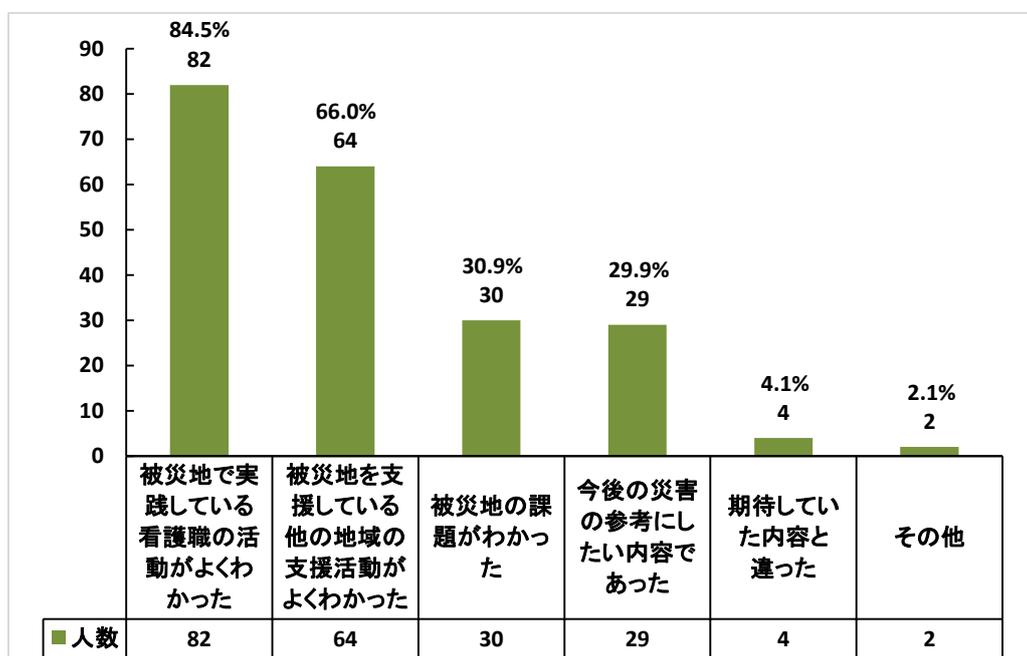


(1) 本日交流集会に参加した理由は何ですか。(複数回答可) n=97



理由	人数	%
被災地の看護の現状を知りたかったため	68	70.1%
発表者の実践報告が聞きたかったため	47	48.5%
災害時の対応について知りたかったため	44	45.4%
被災地支援について関心があったため	43	44.3%
自分が支援を行うための参考にしたいため	17	17.5%
被災地域に勤務しているため	16	16.5%
その他	11	11.3%

(2) 内容はいかがでしたか(複数回答可) n=97



理由	人数	%
被災地で実践している看護職の活動がよくわかった	82	84.5%
被災地を支援している他の地域の支援活動がよくわかった	64	66.0%
被災地の課題がわかった	30	30.9%
今後の災害の参考にしたい内容であった	29	29.9%
期待していた内容と違った	4	4.1%
その他	2	2.1%

(3) 今後被災地の看護職に向けて、どのような支援が必要とお考えですか。

① 活動の共有・連携、ネットワークの形成

- ・ 地域の住民の方々への支援の時、一緒に活動する人々がいること。悩みを語り合う仲間がいること
- ・ このような被災地の看護職が自分の活動を発表する場。地域の他の看護職と共有する場を設定していただいたことに感謝です。
- ・ ネットワーク支援。支援しようと考えていても何をすればいいのかわからない。
- ・ 健康管理だけでなく、他職種や行政との連携、また、個別性を尊重した支援が必要。
- ・ 生活と健康を支える専門職としてネットワークをつないでいくことが大事であると考ええる。
- ・ 全国の専門職による支援をもっとひろげていくこと。
- ・ 地域連携。
- ・ 定期的に他県から NS が行って傾聴する。
- ・ 都道府県同士の連携。
- ・ 被災地域の病院と被災地近くの病院の連携、受け入れ方法、体制の構築、マニュアルが必要と思う。

② 継続的な支援

- ・ これからも住民の心に寄り添った支援を継続していくことが大切だと思います。
- ・ 物、金（労働力）、心 両面の継続的な支援。

③ マンパワーの確保

- ・ その地域で働く看護職を増やす支援。
- ・ マンパワーの充実。
- ・ 勤務したくても、居住できる場所がなく行けないという問題も被災地にはあった。被災者は第一であるのはもちろん、支援する側も不安なく行けるようにしてほしい。数月ではなく、数年単位で、各 HP より NS を派遣し、マンパワー不足解消を図る。
- ・ 現地への看護職の派遣。
- ・ 生きる意味をみつけ、その人らしく生きられる援助を行うための人材、資金等への援助。

④ 風化防止、情報発信

- ・ 皆さんが忘れないで、思い出した時だけでもいいので気にかけていただければと思います。
- ・ 現場の看護職の奮闘をマスコミなど利用して多くの人に知ってもらうことが、精神的に励みになり、頑張りが報われるのではないのでしょうか。
- ・ 語り継いでいけるように、訪れてほしい。
- ・ 今回の会のような情報交換の場だと思います。
- ・ 今日のような各分野で取り組んでいる現状と今までの活動をまとめ、発表する機会があることで、勇気と、またこれからも頑張っていこうという気持ちにさせてくれると

思う。

- ・ 私が知識を持ち、他看護師、家族に話して広げていく。
- ・ 自分たちの看護の成果がわかるようなもの。
- ・ 風化させないこと、皆の意識、コミュニケーションが大事。
- ・ 忘れずにいて、できることがあった時に実践したいと思います。

#### ⑤ 心のケア

- ・ 看護職への心のケア
- ・ 災害時だけでなく、避難生活での支援、メンタルケアが大切と思う。
- ・ 在宅療養者の対応や看護（スタッフ）の心のケアが大切だと思う。
- ・ 思いを聴き共感すること。これからの道しるべになっていただかなくてはならない。
- ・ 支援する看護職や、被災を自ら経験しながらも、現地で看護を頑張っている人たちにもストレスや心のケアなどの調査や、それに応じた対策も必要だと思う。看護職も、人間ですから。
- ・ 住民と向き合い、得たニーズを施策化できるように NS も心に大きな傷をかかえているためその支援。
- ・ 心のケア。
- ・ 身体だけのことでなく、心のケアが必要ではないでしょうか。
- ・ 精神的な心のケアがまだまだ重視されると思う。家族を失った小児へ対してなど特に援助が必要であると感じ、専門家の配置が求められていると思った。
- ・ 被災を経験しながら、看護職として活動されていることに敬意をもつこと。実際にその方々がどんな支援を必要としているのか、関心をもっていきたい。できることは支援したい。
- ・ 被災地の看護活動の労をねぎらう声掛けや活動の実際を参考にしていくことが必要だと思う。
- ・ 被災地看護師のさらなる心のケア。山形県の看護師を被災地に送るような支援をしたらよいと思う。

#### ⑥ その他

- ・ 活動本当にお疲れ様です。
- ・ 現地より、必要な支援を聞きながら、今後考えていきたいと思います。
- ・ 自ら出向くケア。
- ・ 自分でできることがないか、考えていきたい
- ・ 震災の報告でなく、防災や安全に関する前向きな取り組みを伝える場。
- ・ 大変でしょうが、できる範囲でがんばってください。

(4) その他 ご意見・ご感想など自由にご記入ください。

① 風化を防ぐ、情報発信が必要

- ・ 3.11のことを風化させないこと、また、いつ災害が起こるかわからないので、マニュアルを基に訓練していこうと思いました。
- ・ 3.11を忘れません。
- ・ 現地の様子、情報がわかりにくくなり、これが風化なのかなと思う。現在進行形であるということを忘れないで何かできればと思う。
- ・ 現場の声がストレートに届くようなネットがあれば（すでにあるかもしれませんが。。）アドレスを協会ニュース等でお知らせしてほしいです。声をあげていただくと、いつでも応援にかけつけます。
- ・ 今日聞かせて頂いたような実践内容をぜひ広く協会会員に広めてほしいと思います。HPでもよいと思います。（刊行物など）その上で、どのようなこと等にどのような協力（職員、ボランティア）を必要としているのか、HP上で募集して頂けると、参加したい人とつなぐことができると思います。

② 継続的な支援、これからの支援

- ・ ネットワーク構築については、実際に現場で参考にしていきたい。
- ・ 現在、被災地の仮設住宅に訪問に行っています。かかわりの中で農業等をしていた高齢者が多いと思います。行政でもいいのですが、仮設近くに共同農園等の仮設等の支援があるといいと実感しています。それらの収穫を、山形のいも煮の様に地域で共有できるイベントにできるといいなあと思っています。
- ・ 私自身も災害時に活動し、支援できたらと思いますが、どのように参加したらよいかわかりません。
- ・ 自分に何ができるのかと、いつももどかしい思いとなる。やはり、現地で“何か行動する”ことが支援か。まず、自分の仕事、役割において、災害時に役立てるよう備えていこう。学びをいかそう。
- ・ 実際にボランティアを行いたいと思いますが、自分の仕事を抱えながら、土日祭日にボランティアを行いたいと思いましたが、行動をどのように起こせばいいかわからずできませんでした。したがって看護協会のホームページに災害が起こった時に、登録できるようなシステムがあるといいと思いました。登録制度があるのは知っていますが、今、仕事をしていると、登録できません。
- ・ 地域ネットワーク構築に向けた壁を越えるのは大変難しいがやりとげなくてはいけない。
- ・ 福島の方々の現在を考えると、涙が出ます。早く普通の生活ができるように、心から祈っています。
- ・ 貴重なお話ありがとうございました。私は浪江町出身です。先日、お墓参りに浪江に行きました。もう故郷で皆と生活することはできません。田舎を返してくださいといつも思っています。89歳母の話聞いてあげることしかできません。
- ・ 毎年この企画を続けてほしいと思います。他県協会へもボランティア協力をしてほしいのではないのでしょうか。多くの方々がかかわっていくことが大事と思えました。

### ③ 参加した感想、要望、その他

- ・ ありがとうございます。困難の中での活動に頭が下がりました。
- ・ この企画を行ってくださり、ありがとうございます。
- ・ 今回たくさんのご配慮をいただき有意義な時間を過ごしました。ありがとうございます。
- ・ 今回の集会では看護学生という立場でもありながらとても貴重なお話を聞かせていただいた。被災地関連の情報はメディアで取り扱われることも減少してきており、私自身も新たなニュースへ関心が移り変わっていた。学生であり何もできない未熟者であるが、私に何ができるのか、看護師になったときに自分ならどうするかとさらに深く考えるきっかけとなった。何よりも忘れないこと、被災は終わっていないことを胸に刻み、国家試験合格に向けさらに頑張っていきたいと感じた。貴重なお話を聞かせていただいたこと、お誘いいただいたこと本当にありがとうございました。
- ・ 初めて今回学会に参加させて頂き、そして、このような被災地の現状を実際に活躍なされた専門職の方々より話を聞かせていただき、とてもよい経験となりました。看護師として働けることになったら、私も何らかの形で被災地の力になりたいと強く感じました。ありがとうございます。応援し続けています。
- ・ 大変有意義な集会でした。看護職は住民とともにあり、生活者としての視点を大切に全人的サポートができる存在でありたいと心より思いました。ありがとうございます。
- ・ それぞれの地域の状況がわかった。このような機会(発表する機会・聞く機会)があるのは良いことだと思った。
- ・ とても貴重な2日間を過ごさせて頂きありがとうございます。
- ・ とても良い企画だと思います。今後とも是非継続していただき、交流を図れたらよいと思います。今回はとても元気をもらいました。ありがとうございます。
- ・ なかなか東北までくる機会がなかったので、今回この交流会に来ることができてよかった。被災地の方の意見がもっと聞けたらよかったなと思いました。医療従事者の声等ももっとききたかったです。
- ・ 遠方ではありますが、自分の出来る支援方法を考え活動していきたいと思います。参加する事ができて本当によかったです。ありがとうございます。
- ・ 中板さんの最後の言葉が心にしみました。
- ・ 発表者の方々のお話が心に深く入ってきました。ありがとうございます。
- ・ 被災地へのメッセージを書いていて、お誘いいただきました。ありがとうございます。ご自身も被災されながらの活動は本当に大変だろうと思います。「目と耳と心をかたむけて」というのがとても印象に残りました。
- ・ 参加することができてよかったです。ありがとうございます。阿部さんの活動をずっとお聞きしたいと思っておりました。看護職として働いてきたことが、4月1日からスッと福島に行く決断をさせたのでしょうか。これまでの歩み(看護職として)ももっとお聞きしたいです。
- ・ 体験や経験を知り、普段の生活に活かしていかなければならないと思います。貴重な話をありがとうございます。今後も伝えていってください。
- ・ 示説発表時間と時間が重なってしまい、移動などで慌ただしかった。

## 6) 評価

- ・参加者は、150名規模の会場が満員になるほど集まり、熱心に話を聞いている姿も見られ、関心の高さがうかがえた。
- ・一般参加者からも、「今後の被災地支援について改めて考える機会になった。」という声があるなど、看護活動の共有化を図ることができた。
- ・アンケート結果より、被災地の看護職に向けた支援として、心のケアや活動の共有、また被災地での奮闘を風化させないことなどの記載があった。交流集会では、被災地の看護職の活動を広く参加者に発信し、共有することができることから、引き続き、本事業を継続していく必要があると考えられた。



### **3.被災地域における看護職員実態調査**

---

---



## 1) 概要

本会では、東日本大震災直後である平成23年5月～8月にかけて、被災3県（岩手県・宮城県・福島県）の沿岸部地域において、東日本大震災による地震と津波、原子力発電所事故による多重の被害を受けた会員の安否および被災状況の確認を行うことを目的として、会員をはじめ会員が所属する医療機関等の施設に調査を行った。本調査は、平成23年度に実施した前回調査の追跡調査として実施した。

## 2) 目的

被災地域における看護職員の実態を調査することにより、人材確保・定着対策の課題等を把握し、今後の支援に向けた取り組みや政策提言を検討する資料を得る。

## 3) 対象

被災3県（岩手県・宮城県・福島県）にある平成23年度に実施した前回調査の調査対象施設：410施設

## 4) 期間

平成26年6月～7月

## 5) 方法

郵送による質問紙調査

## 6) 倫理上の配慮

倫理上の配慮として、調査票は無記名で統計的に処理した。また、調査は日本看護協会研究倫理委員会の承認を得て実施した。

## 7) 回収状況

調査票を配付した410施設のうち、回収は252施設で、回収率61.5%である。

県別の回収状況は、岩手県38施設/63施設（回収率:60.3%）、宮城県108施設/174施設（回収率:62.1%）、福島県106施設/173施設（回収率:61.3%）である。

回答のあった施設の内訳は252施設中、病院95施設（37.7%）、診療所44施設（17.5%）、地方自治体30施設（11.9%）、訪問看護ステーション23施設（9.1%）、地域包括支援センター・在宅介護支援センター2施設（0.8%）、介護保険施設・事業所32施設（12.7%）、看護系教育機関16施設（6.3%）、その他10施設（4.0%）である。



## 8) 結果

### 看護職員の現状と課題：実態調査の実施

- 日本看護協会は、平成26年6月に、被災3県の沿岸部地域および周辺地域の会員施設を対象に「被災地域の看護職員実態調査」を実施。（※平成23年5月に実施した調査の追跡調査）

#### ＜目的＞

被災地における看護職員の実態を調査することにより、人材確保・定着対策の課題等を把握し、今後の支援に向けた取り組みや政策提言を検討する資料を得る

#### ＜調査対象＞

平成23年5月に実施した調査の対象施設（410施設）

#### ＜調査期間＞

平成26年6月23日から7月28日

#### ＜回収状況＞

**全体** 回収率：61.5% 252施設/410施設

#### 県別

	岩手県	宮城県	福島県
	60.3% (38施設/63施設)	62.1% (108施設/174施設)	61.3% (106施設/173施設)

公益社団法人 日本看護協会

### 被災地域の施設の状況

- ◆ 施設の稼働は2011年当時より改善。しかし、依然7%近い施設が、通常通りの稼働に至っていない。

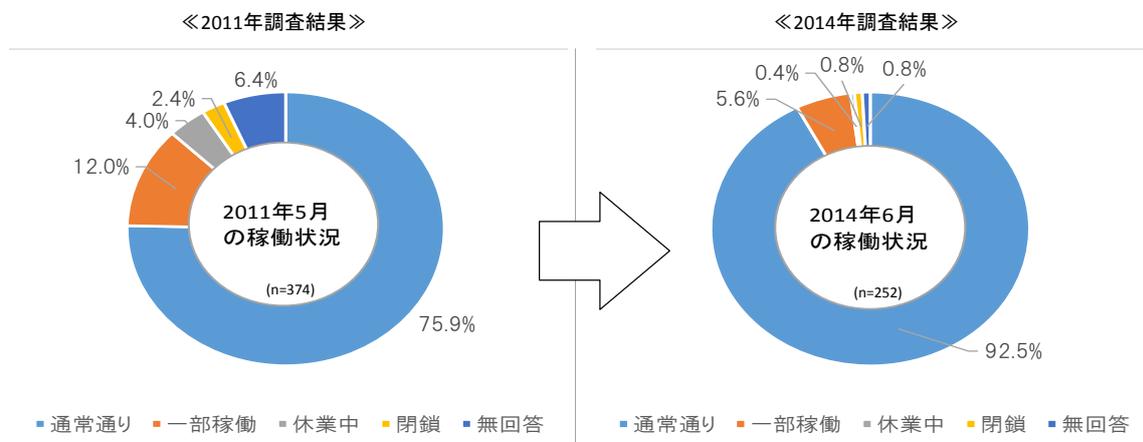


図 施設の稼働状況の変化

公益社団法人 日本看護協会

2

## 勤務している看護職員数の増減の状況

◆ 2011年当時と比べ、看護職員数が増加した施設が18.3%増加

➤ 看護職員数は全体で349人増加

➤ 宮城県、福島県では増加傾向

➤ 岩手県では減少傾向  
特に、2011年当時より職員が減少したとする施設の割合が12.4%増加。

➤ 福島県でも、一見、増加しているように見えるが、詳細にみると、別の課題が浮上。(次ページへ)

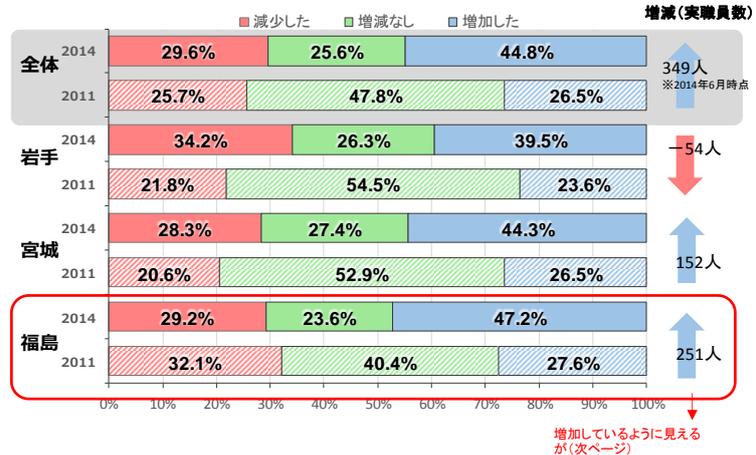


図 勤務している看護職員数の増減の状況

## 看護職員数の増減の状況(福島県)

◆ 福島県の地域別にみると、相双地区の状況が厳しい

➤ 相双地域において、「減少した」とする割合は4割を超え、実職員数も減少

➤ なお、更に詳しく個別に分析すると、相双地域の施設

- ① 組合系病院は増加
- ② 公立病院は現状維持
- ③ 医療法人は減少

の傾向がみられた。

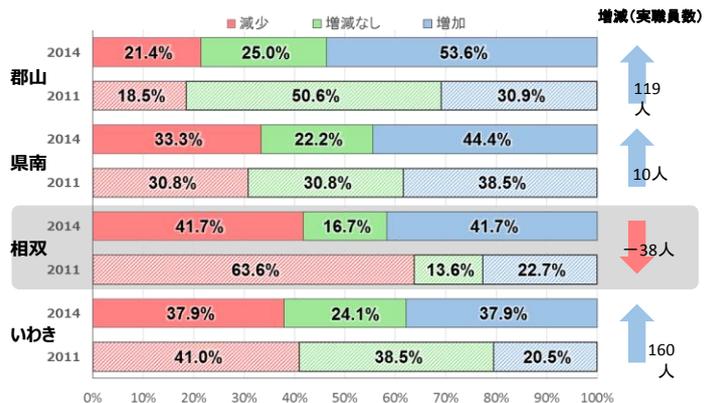


図 勤務している看護職員数の増減の状況

## 看護職員の採用状況

### ◆ 看護職員を採用があった施設は全体で43.3%

- 2014年4月1日に看護職員を採用できた施設は43.3%(109施設)
- 採用者数は、全体で746人
- 746人のうち、新卒看護職員は514人(68.9%)

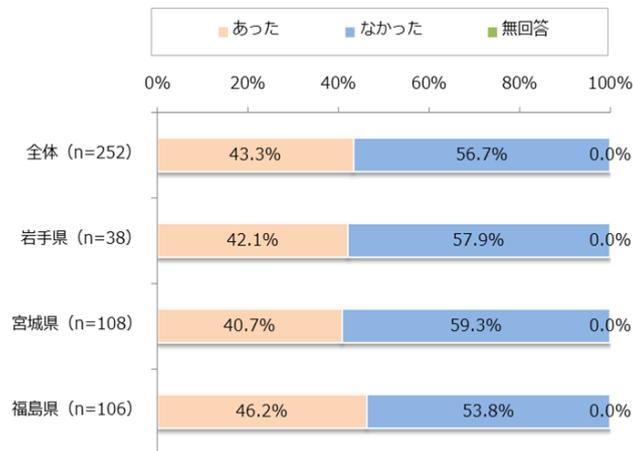


図 2014年4月1日採用の看護職員の有無

## 看護職員の採用状況

### ◆ 被災地域では、依然、看護職員の確保が困難

- 2014年6月1日現在、看護職員を必要とする施設は**50.8%(128施設)**
- 出向や復興支援事業等で配属されている看護職員がいる施設は、全体の7.5%程度に留まっている。

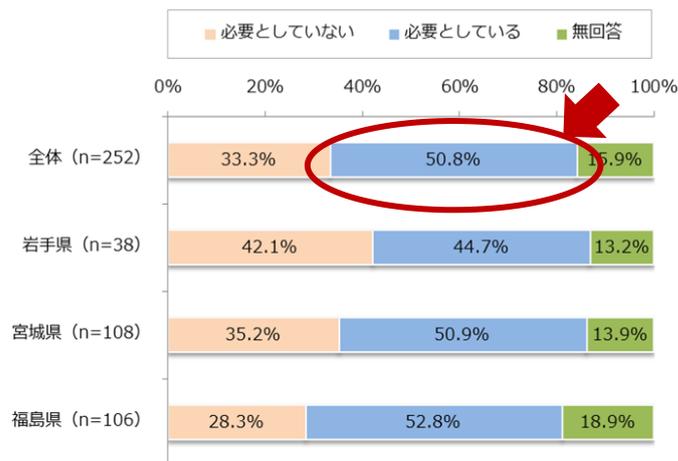


図 2014年6月1日現在 採用を必要とする看護職員の有無

## 看護職員の採用状況

### ◆ 特に「病院」「介護施設」での人材確保が急務

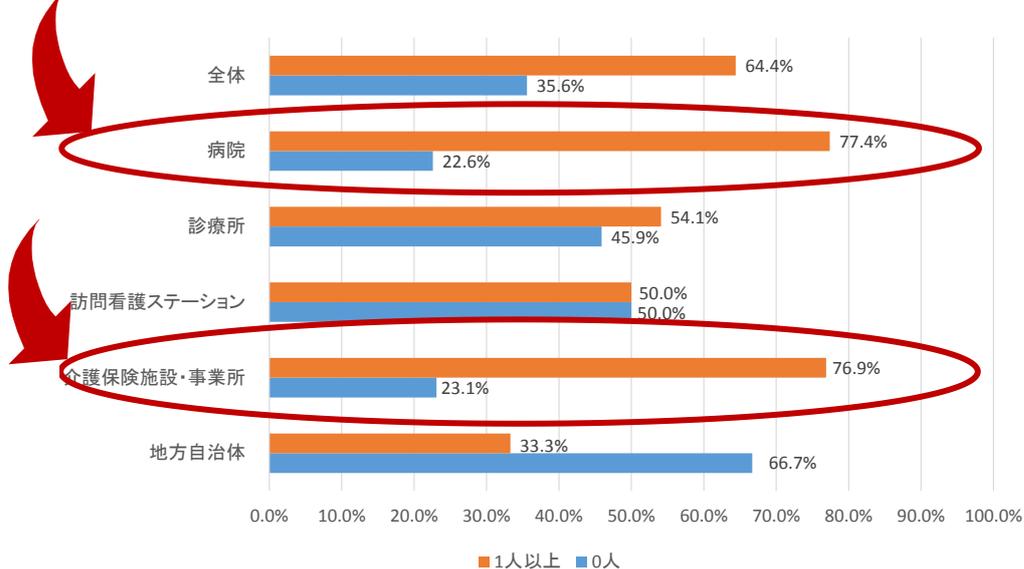


図 2014年6月1日現在 採用を必要とする看護職員の有無（施設種類別）  
※無回答を除き、回答数の多い施設のみで集計

## 調査報告書について

本調査の詳細は報告書を参照してください。

<http://www.nurse.or.jp/home/reconstruction/2014/pdf/jittaichosa.pdf>

## **4.保健師の実践力強化に向けた 事例検討会定着化のための支援**

---

---



## 1) 概要

福島県相双地域では、原発事故の避難指示による役場機能の移転や保健師分散配置の状況下  
にあり、組織横断的な事例検討会による保健師の実践力強化が重要になる。保健活動を行う保  
健師らを支援する「実践力アップ事例検討会」を開催し、専門的実践力の向上および人材育成  
の基盤づくりを支援した。

## 2) 目的・目標

### 目的

- (1) 保健師の専門的実践力の強化
- (2) 自組織内での事例検討会開催の定着化による人材育成の基盤づくり

### 目標

- 複雑・困難事例のアセスメント、根拠に基づく個別支援のあり方・支援方針を確立できる
- 支援方針に基づき実践ができる
- お互いの保健指導の実践を確認し合い事例の共通点を見出すことができる
- 事例から被災地特有の地域の健康課題をとらえることができる
- 事例検討会を通して、保健師の人材育成に関する課題を集約できる
- 自組織内で組織横断的に事例検討会の場を定着化させることができる

## 3) 対象

福島県相双地域の市町村保健師（広野町・新地町）

## 4) 事業実施期間

平成 26 年 10 月～平成 27 年 12 月

## 5) 実施内容

### (1) 事例検討

- ・ 町保健師が担当しているケース 6 例を検討（表 1）
- ・ 事例検討会参加者全員で情報を整理・統合化しアセスメントを言語化
- ・ 検討したケースの今後の支援の方向性と役割分担を明確化

### (2) 保健師の専門的実践能力を向上させるための事例検討会手法の学習

- ・ 事前学習として「実践力アップ事例検討会実施の手引き」(H25 年度報告書)の読み込みを促し、事例検討会当日には手法について再確認

### (3) 事例検討会のファシリテータを現地保健師自らが担当

- ・ 事例検討会を通して、事例検討会に熟達した保健師(本会より派遣)のファシリテータスキルを学ぶとともに町保健師も体得する場を確保

表 1 検討した事例

	自治体	検討した事例	
		(内訳)	
1	広野町	2 例	・母子保健 1 例 ・高齢者の健康支援 1 例
2	新地町	4 例	・母子保健 1 例 ・高齢者の健康支援 3 例
合計		6 例	



表 2 平成 26 年度 実践力アップ事例検討会参加者数

実施自治体	会場	回数	実施日	参加者(人)	【再掲】			支援者名	事務局(人)
					市町村		福島県等		
					保健師	他職種			
1 広野町	広野町保健センター一会議室	2	10月1日(水) 13:30~16:30	13	2	8	3	立花 正一(精神科医) 藤尾 静枝(保健師)	1
			11月13日(木) 13:30~16:30	6	2	0	4	鷲山 拓男(精神科医) 遠藤 厚子(保健師)	1
2 新地町	新地町保健センター一会議室	2	11月12日(水) 13:45~17:00	10	3	2	5	立花 正一(精神科医) 藤尾 静枝(保健師)	1
			12月22日(月) 10:00~15:00	12	3	3	6	佐野 信也(精神科医) 中板 育美(保健師/本会常任理事)	-
合計(延人数)				41	10	13	18	8	3

表 3 検討した事例の概要(一部)

	広野町	新地町
母子保健	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2世帯同居していたが震災後に世帯分離、自閉症児(5歳児)の両親が離婚。後に再婚。</li> <li>・継母は対象児のパニックや問題行動の対応に苦慮している。</li> <li>・次年度就学にあたって、集団生活に適應していくための学校側と家庭との連携、準備が滞っている。</li> <li>・継母自身も精神疾患を抱えながら、2人(対象児と1歳児)の育児を行っており、母への健康支援と共に育児支援の両方が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4人家族である。母親は20歳で第1子、22歳で第2子を出産。</li> <li>・乳幼児健診は、第1子・第2子ともに未受診である。</li> <li>・母親は保健師に対しては拒否的な対応ではないが、当たり障りのない対応でその場をやり過ごす。</li> <li>・第1子は保育園に通園しており、近々、園と情報交換を行なう予定。</li> </ul>
高齢者への健康支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・震災後、避難先である、いわき市内の応急仮設住宅に一人暮らし。震災前は、息子夫婦と同居していた。</li> <li>・高血圧、脂質異常症、白内障で通院。</li> <li>・仮設住宅管理人にモノ取られや不安等の訴えが頻発となり、また、自費で家の鍵を交換。</li> <li>・定期健康相談において保健師に対しても同じような訴えあり。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルツハイマー型認知症が進行している母親と知的障害のある娘の二人暮らし</li> <li>・短期記憶困難が著しく、会話が成立しない。同居の娘は母親の介護に疲労困憊である。</li> <li>・以前は近隣の人々も協力的であったが、当事者が財布を紛失して探し回るようになり、他者を疑うようになってからは、距離を置くようになってしまった。</li> </ul>

広野町では、町保健師のほか、多職種(児童相談所、幼稚園、保育所、子どものデイサービス事業所、教育委員会職員、福祉担当職員)共同で事例検討会を行った。多方面からの情報を基に、複雑・困難な事例について心理・社会的視点でアセスメントを行うことができた。これまでは、一家族に多様な機関が各々の立場で関わってきたが、それぞれが役割分担を持ちながら同じ方向性で支援できるよう、今後の方向性を具体的に見定めることができた。また、多職種連携は不可欠であることを共通認識でき、今後お互いの情報を交換しながら複雑困難な事例について前向きに取り組めるようなサポートチームを築く足がかりができた。

新地町では、町保健師や地域包括支援センターケアマネージャーのほか、管轄保健所である相双保健福祉事務所から新任期・中堅期・ベテランの保健師5~6名が参加した。様々な情報をお互いに引き出し合いながら統合化し、より深く対象を理解した上で、正しい情報に基づき多角的にアセスメントをすることができた。特に、高齢者の健康支援においては、介護者の健康支援を行いつつ、地域の人々の力も得ながら、支援していく方策を導き出すことができた。

## 6) まとめ

- ・事例検討会参加者アンケートでは、約9割が「事例検討会支援は、対象者へのより良い支援に役立った」「参加者相互の問題解決能力や実践力を伸ばすことに役立った」と回答しており、スキルの向上に有用であったと考える。
- ・職種の枠を超え相互に情報共有を図れたことで、対象のとらえ方や視点の違いが明確になり、また「今回学んだ手法を地域ケア会議で用いたい」と意欲を示すなど今後も多職種共同で進められる契機となった。
- ・今回の事例検討をきっかけに保健師としての実践を振り返ることができ、今後もっと実践力を強化するために事例と向き合っていきたいという声も寄せられた。福島県で事例検討会を核としながら保健師としての専門的実践能力を向上していくことの意義は大きいと考えられ、引き続き、本事業を行う必要があると考えられた。



## 5.原発避難地域の保健師活動人材育成支援

---

---



## 1) 概要

福島県相双地域での統括保健師の配置に向けて、自組織の課題を整理し、事例検討会を通して見えてきた自組織の課題や、長期的な避難生活を送る人々の健康支援を担う保健師が置かれている現状を共有する。統括的立場にある保健師同士の横のつながりを持ちながら、配置獲得に向けた検討を行った。

## 2) 目的・目標

### 目的

- (1) 保健師の直面した課題、果たしてきた役割の共有
- (2) 配置や役割・機能の発揮に向けた、統括保健師の必要性の確認

### 目標

- 災害時に統括保健師が担ってきた活動を共有できる
- 統括保健師の必要性、その役割・機能を理解できる
- 統括保健師の配置を目指し、心の健康を保ちながら、
- 自組織内で活動できる
- 統括保健師同士の横の連携を図る基盤づくりができる



## 3) 対象

福島県相双地域の自治体、保健所において統括的立場にある保健師

## 4) 実施内容

日 時：平成 27 年 1 月 31 日（土） 10：00～15：30

参加者：42 名（県および市町村保健師 38 名、事例発表者 3 名、看護協会関係者 1 名）

### ■テーマ

「集まろう！語り合おう！統括保健師のこと～統括保健師の配置推進に関する相互支援会議～」

### ●講話 「リーダーシップの発揮と統括保健師の配置推進」

中板育美(日本看護協会 常任理事)

### ●実践事例発表① 「統括保健師人材育成プログラム受講の立場から」

相原 好子(いわき市保健所地域保健課 課長補佐)

斎藤 恵子(郡山市保健所総務課 保健師・助産師・看護師支援係長)

### ●実践事例発表② 「保健師職能の立場から」

富樫 文子(福島県看護協会保健師職能委員長)

### ●グループディスカッション

「それぞれの立場で今後実施したいこと・できること～統括保健師の配置推進に向けて～」

コーディネータ:中板 育美(日本看護協会常任理事)

### ●講話「あの時リーダーシップを求められた人のためのメンタルヘルス」

講師 立花 正一(防衛医科大学 教授 精神科医)

## ○グループディスカッションの発言より

### ＜統括的な立場の保健師から＞

- ・自組織内で今後統括保健師を位置づけるための最適な配置のあり方を検討することができたとし「保健師を統括する立場にあることを覚悟した。分散配置先の保健師を含め、ベクトルを合わせ活動できる環境をつくる」という決意表明があった。
- ・組織的に認められるために事務分掌には統括保健師の役割・機能を明記できるよう働きかける、キャリアパスを意識しながらジョブローテーションし、段階的に成長していけるような人材育成ができるためにも人員配置や確保に関して意見具申するといった力強い発言が相次いだ。

### ＜補佐的な立場の保健師から＞

- ・統括保健師の支えになるよう、自分たちの持つ情報の精度を上げて報告する、保健師の意見を吸い上げる、色んな角度から様々な情報を集め担保するといった発言があった。
- ・災害時には様々な判断が統括保健師に求められるため常に情報を共有すること、統括保健師を支えるネットワークをつくる必要があるとした。
- ・統括保健師の配置に向けて、統括保健師は組織に働きかける役割を担ってもらっていることを保健師間で共有し、必要性を他職種に理解してもらえるように働きかけていきたいとした。

## 5) まとめ

統括保健師の配置推進に関する相互支援会議においては、統括的な立場としての決意表明が聞かれ、また、補佐的な立場として取り組むべきことが明らかとなり、保健師同士や所属組織内での共有・検討を進めていくとする意見も聞かれ、今後につながる機会となった。

## 6.東日本大震災災害支援金配分事業について

---

---

---



## 1) 概要

平成 24 年度の東日本大震災復興支援事業として、災害支援金配分事業を実施した。配分先は公募し、岩手県 10 団体、宮城県 13 団体、福島県 13 団体の計 36 団体に支援金を配分した。支援金は、被災した住民の支援事業（イベント型・地元定着型）、訪問看護ステーションの再建事業に活用された。

平成 26 年度 3 月末をもって、全ての団体が支援金による事業を終了した。

## 2) 目的

被災者への支援のための活用や、訪問看護事業の活性化等の事業に助成し、在宅ケアの再建や被災者支援の側面から被災地域の復興に貢献する。

## 3) 方法

被災者の支援活動や訪問看護の活性化を図る事業等を行う法人や団体等を対象に公募を行い、該当施設を選定したうえで、申請金額を送金。

## 4) 対象

対象事業：

イベント型被災者支援、地元定着型被災者支援、訪問看護ステーション再建事業

対象団体：

看護職が代表を務めており、東日本大震災によって被災した方を対象とする活動や、訪問看護の再建・活性化を図る事業等を行っている法人や団体など。

## 5) 実施期間

平成 24 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日

## 6) 配分団体の決定

災害支援金配分検討委員会にて検討を行った。52 団体より申請があり、応募要件や予算計画の要件を満たしていないもの、また同一設置団体の複数申請を行っているものを選定から省くなど審査を行い、36 団体に決定した。

## 7) 事業予算の決算及び事業内容の概略について

事業団体数：36 団体

事業予算：¥56,614,180

決算：¥56,793,618

## 8) 災害支援金配分事業 活動報告一覧

### 訪問看護ステーション 13件

No	支援金額	事業名		活動期間
	活動形態	活動場所	主な活動者	主な支援対象者
1	2,000,000円	訪問看護ステーション再建事業		H24年4月1日～H26年3月31日
	訪問看護ステーション再建	岩手県釜石市・大槌町	看護師5名、理学療法士1名	岩手県釜石市で被災した住民
<ul style="list-style-type: none"> <li>・震災で施設の建物を流出</li> <li>・住民の要望により借家で事業を再開</li> <li>・訪問内容は・状態の観察・医療処置・ターミナルケア・在宅でのリハビリテーションなど</li> <li>・月平均500回以上の訪問看護を行った</li> </ul>				
2	1,990,000円	大震災における要介護者の自宅非難生活支援ネットワーク構築事業		H24年4月1日～H26年3月31日
	訪問看護ステーションの再建	宮城県仙台市若林区(荒井、七郷など沿岸よりの地域)	看護師2名、理学療法士1名、事務職員1名	主に仙台市若林区・宮城野区の要介護者
<ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災において、仙台市若林区・宮城野区の自宅避難利用者への介護を実施した指定居宅サービス事業所を中心に複数の事業所が協力し合いネットワーク構築を試みた。</li> <li>・参加事業所数:28施設</li> <li>・事業説明会・意見交換会:1回、検討会開催:7回、シンポジウム開催:1回</li> </ul>				
3	1,000,000円	訪問看護ステーション再建事業		H24年4月1日～H26年3月31日
	訪問看護ステーションの再建	宮城県仙台市	看護師4名、理学療法士1名、事務1名	訪問看護師など
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人員不足による稼働訪問看護師の求人活動を行った。</li> <li>・看護師の心身の負担を軽減するためには外部研修の参加や懇親会を開催した。</li> <li>・スタッフ間の親交を深めるとともに労働意欲を高めることができた。</li> <li>・懇親会 2回 求人活動:求人誌への掲載(2回)、各地域への新聞折込(10回)</li> </ul>				
4	2,000,000円	被災者支援の為の訪問看護事業広報活動及び「やっぱりおうちに帰ろう」プロジェクト		H25年4月～H25年12月31日
	訪問看護ステーションの再建	福島県相馬市新地町	看護職5人	相馬市・新地町の被災者及地域住民 総合病院看護師
<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮事業所で営業、嘱託職員を採用した。</li> <li>・看護専門学校学生指導、看護学校の実習生が2倍に増えた。</li> <li>・職員の負担の軽減と以下の絆事業を実施した。</li> <li>・地域住民へ「在宅で安心して療養生活を送れる為の介護相談」を実施</li> <li>・総合病院看護師に対して「やっぱりお家に帰ろう」プロジェクトの実施計5回</li> <li>・「病院から安心して在宅に帰るには」というテーマで病棟会4回と外来勉強会(1回)に参加し、「継続看護と地域連携の重要性」を講義した。</li> </ul>				
5	2,000,000円	訪問看護再建事業		H24年10月1日～H26年3月31日
	訪問看護ステーションの再建	福島県伊達市梁川町	2名(看護職)	地域利用者
<ul style="list-style-type: none"> <li>・サテライトの設置</li> <li>・全体の利用者数は150名に達し訪問件数も850件ほど。</li> <li>・地域を分割することで1日の走行距離も短縮し、移動による危険性も回避できた。</li> </ul>				
6	2,000,000円	被災高齢者等の在宅医療・介護を守ろうプロジェクト(避難地域の被災高齢者等(仮設住宅居住者)への在宅医療、介護拡充事業)		H24年4月1日～H26年3月31日
	訪問看護ステーションの再建	福島県南相馬市鹿島区	看護職 3名 看護師以外1名	震災及び福島原発事故により避難中の住民等
<ul style="list-style-type: none"> <li>震災・原発事故等で設置された仮設住宅を中心に被災高齢者に十分なケアを提供。</li> <li>職員を増員し、利用者・訪問回数を増やすなど在宅ケアの拡充に努めた。</li> <li>平成24年度、月平均の利用人員43名、訪問回数189回、年間2,269名</li> <li>平成25年度、月平均の利用人員44名、訪問回数208回、年間2,488名</li> </ul>				

No	支援金額	事業名	活動期間
	活動形態	活動場所	主な活動者
			主な支援対象者
7	2,000,000円	訪問看護ステーション再建事業	H24年4月1日～H26年3月31日
	訪問看護ステーションの再建	福島県相馬市	看護職6名、 看護職以外6名
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハローワーク及び有料の人材紹介会社等で人材確保。</li> <li>・仮説住宅へ避難されて来た要介護者の方々へ、満足の行くサービスを提供できるよう努めた。</li> </ul>			
8	2,000,000円	訪問看護ステーション再建事業	H24年4月1日～H26年3月31日
	訪問看護ステーションの再建	福島県南相馬市	看護師5名
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハローワーク等へ募集、人員を確保した。</li> <li>・訪問リハビリステーション開設し、ステーションも増えた。</li> <li>・平成24年度の月平均利用者数34名、利用件数347件</li> <li>・平成25年度の月平均利用者数35名、利用件数256件</li> </ul>			
9	2,000,000円	訪問看護ステーション再建事業	H24年10月1日～H26年3月31日
	訪問看護ステーションの再建	福島県福島市	看護師10名、 理学療法士2名 作業療法士1名
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模事業所を統合し、在宅移行者の拡大、高齢化社会に対応できるようになり、運営やサービス提供の向上および質の向上に努めた。</li> <li>・平成24年10月～平成25年3月の月平均利用者数120名、訪問延回数770回</li> <li>・平成25年度の月平均利用者数128名、訪問延回数790回</li> </ul>			
10	2,000,000円	訪問看護ステーション再建事業	H24年4月1日～H26年3月31日
	訪問看護ステーションの再建	宮城県宮城郡利府・ 塩釜	看護7人 事務職2人
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成25年9月に訪問看護のエリア拡大を視野に新病院の一角にサテライトを設置したことで効率的に訪問できた。</li> <li>・訪問リハビリの導入を行い、理学療法士と作業療法士を各0.5名ずつ配置、看護とリハビリの相乗効果があった。</li> <li>・災害支援金を活用し、訪問車2台を購入。パンフレットを作成。利用者数や訪問看護件数が伸びた。</li> </ul>			
11	2,000,000円	訪問看護ステーション再建事業	平成23年10月3日～継続中
	訪問看護ステーションの再建	エールサポートセン ター	看護師3名
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大槌町委託の仮説住宅に隣接する「エールサポートセンター」での活動</li> <li>・被災住民の生活の安定や生活不活発病の予防病気の早期発見、心のケア、血圧測定理学療法士と協働した転倒予防の取り組み等</li> </ul>			
12	2,000,000円	訪問看護ステーション再建事業	H24年4月1日～H26年3月31日
	訪問看護ステーションの再建	宮城県石巻市	看護師7～10名 事務職員1名
<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問看護事業を再開、看護教育用機器、教材、携帯型検査機器の購入</li> <li>・求人広告の改善、ハローワーク職員と検討求人票の変更、3名入職。</li> <li>・訪問看護師の研修、同行訪問についてのマニュアル作成、精神科看護研修(外部講師)研修会5回、プリセプター指導、技術指導</li> </ul>			
13	2,000,000円	訪問看護ステーション再建事業	H24年4月1日～H26年3月31日
	訪問看護ステーションの再建	宮城県仙台市若林区 石名坂	看護師 8名 護支援専門員 2名 事務員1名
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人員を確保するためにホームページを作成し求人活動を行った。</li> <li>・事例検討会(11回 222人)、緩和ケア勉強会(9回 54人)の開催</li> <li>・認知症についての講演会の開催(参加者 45人)</li> </ul>			

一般社団法人 5件

No	支援金額	事業名	活動期間
	活動形態	活動場所	主な活動者
			主な支援対象者
1	1,890,000円	ママとつくるいわて ほっとママサロン事業	H24年4月1日～H26年3月31日
	地元定着型	岩手県宮古市・釜石市・北上市・花巻市・大槌町	助産師延べ93名
			被災地および内陸(内陸避難)に居住する妊婦、子育て中の母親・乳幼児
	<ul style="list-style-type: none"> <li>被災地に居住する妊婦・子育て中の母親・乳幼児を対象にした子育てサロンを現地の妊婦や母親たちと協働して展開した。</li> <li>ベビーマッサージ・ハンドマッサージ等、参加者同士がフリーで交流する場などを折りませながら展開した。</li> <li>妊婦や母親にとって、子どもをのびのびと遊ばせる場、同じ地域で同年齢の子どもを育てている母親との交流、一時的な解放や振り返りの機会等となっていた。</li> <li>平成24年度は36回開催、参加者数264組。平成25年度は42回開催、参加者数462組。</li> </ul>		
2	1,000,000円	地域住民のケア拠点施設)創設支援事業	H24年4月1日～H25年7月31日
	地元定着型	宮城県・石巻市・東松島市	看護師 5名、保健師1名
			被災した東松島市の地域住民と看護職、創設に関わる看護職
	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民のケアの拠点となる施設を創設</li> <li>仮設住宅で暮らす住民への健康への支援や石巻医療圏で働く看護職への支援に取り組み始めた。</li> <li>拠点の中核となる建物の設計に着手するための専門家との打合せ</li> <li>仮設住宅住民への健康教室の開催</li> </ul>		
3	2,000,000円	じよさんしサロン	H24年11月1日～H26年3月31日
	イベント型	仙台市泉区、青葉区、太白区、石巻市、南三陸	宮城県助産師会会員
			乳幼児とその母親
	<ul style="list-style-type: none"> <li>助産師によるサロン活動により最弱者である乳幼児に震災によるストレスを向けられることを予防。</li> <li>閉じこもり育児から脱出するきっかけ作り、友達づくりを促進、という目的で実施した。</li> <li>25年の宮城県看護協会の学会で展示と実践報告をした。</li> <li>ベビーマッサージ、手遊びと助産師による育児相談</li> <li>平成24年度は計11回、平成25年度は計26回</li> </ul>		
4	1,000,000円	被災県母子の産後入所ケア事業	H24年8月1日～H25年3月31日
	地元定着型	福島県会津若松市、いわき市、南会津町	助産師14名
			被災県母子
	<ul style="list-style-type: none"> <li>助産師による24時間体制の母子ケアの実施</li> <li>環境を提供、母乳育児支援、育児技術習得への支援、生活技術習得の支援</li> <li>平成24年8月1日～平成25年3月31日までの、産後ケア事情利用者は26組の母子、延べ195日間。</li> <li>同時に複数の入所利用者があり、利用実日数は144日間。</li> </ul>		
5	2,000,000円	被災地及び避難先における妊産婦母子支援事業『東北こそだてプロジェクト』	H24年4月1日～H26年3月31日
	地元定着型	東京都中野区・岩手県花巻市・新潟県長岡市	助産師12名
			・原発事故・津波により避難した妊産婦母子・乳幼児
	<ul style="list-style-type: none"> <li>県外非難した母子を助産師による個別訪問やサロン活動。</li> <li>発育・育児・母乳相談、母親の心身の相談、ベビ・マッサージ、情報交換および交流、クリスマス会など季節のイベント</li> <li>個別訪問:母乳相談、育児相談(予防接種情報含む)、生活上の相談、避難先での初めての出産の為、手続きなどの相談</li> <li>支援者合計 サロン活動45回 個別訪問活動16回</li> </ul>		

## 医療法人 4件

No	支援金額	事業名		活動期間
	活動形態	活動場所	主な活動者	主な支援対象者
1	2,000,000円	訪問看護ステーション再建事業		H24年4月1日～H26年3月31日
	訪問看護ステーションの再建	宮城県仙台市 宮城野区	管理者1名	地域利用者
<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問看護を円滑に行うために必要な人員の確保のため、求人を行った。</li> <li>・訪問件数は平成24年度4,207件、リハビリ3,376件 計 7,583件、平成25年度 4,720件、リハビリ3,303件 計 8,023件</li> </ul>				
2	2,000,000円	1、訪問看護師人材定着プロジェクト 2、被災者のための支援事業		H24年4月1日～H26年3月31日
	訪問看護ステーションの再建	福島県いわき市	9人(内訳:看護職 8人、看護職以外 1人居宅介護支援 1人含む)	いわき地区勿来・田人方部・北茨城市北部在宅療 養者
<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問看護活動を充実させため、人材確保、定着を図る。(人件費の補助)</li> <li>・質の向上のため、在宅ケア研修の受講。</li> <li>・訪問看護必要備品の購入</li> <li>・訪問看護のPRのため、訪問看護の制度、内容の説明会の開催</li> <li>・訪問看護の安定供給のため、自動車を購入</li> </ul>				
3	405,000円	復興支援プロジェクト		H24年1月16日～H26年2月3日
	イベント型・地元定着型	福島県南相馬市原町 区	看護師 5名 事務 2名	被災した住民
<ul style="list-style-type: none"> <li>・放射線の影響で多くのスタッフが避難した中、働くスタッフと地域住民の方々の心の復興のために、ヨガ教室の定期イベント活動をした。</li> <li>・利用者数は平成24年～25年度 週1回 平均利用者数15名 延べ 1,440人</li> <li>・イベント開催2回、参加者:職員、患者、家族 115名</li> </ul>				
4	933,500円	被災住民への支援事業		H24年4月1日～H26年3月31日
	地元定着型	岩手県宮古市西地区	看護師1名 主任介 護支援専門員1名 精神保健福祉士1名 作業療法士1名	被災住民
<ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回サロン喫茶を開催、月2～3回月平均利用者数は20名、健康チェック、健康相談、レクレーション、認知症施設訪問見学を行った。</li> <li>・参加者の方の励ましあう光景がみられ、幾分元気な様子がみられた。</li> </ul>				

## 個人 3件

No	支援金額	事業名		活動期間
	活動形態	活動場所	主な活動者	主な支援対象者
1	500,000円	被災者支援活動写真展事業及び募金活動		H24年4月1日～H26年3月31日
	イベント型	千葉県内各市庁及び 公的施設13施設	看護師7名、 保育士5名、 その他会員76名 延人数 251名	大槌町民及び千葉県内写真展開催地の住民
<ul style="list-style-type: none"> <li>・千葉県内各地で大槌町の現状を写真展で紹介する事に力を入れた。</li> <li>・平成24年度の写真展、7ヶ所、来場者数約2100人、平成25年度の写真展、13ヶ所、来場者数約5600人</li> <li>・被災地への想いを見直すことが出来たのが嬉しかったとの声が多数聞かれ、継続した活動の必要性を感じている。</li> <li>・大槌町の教訓から防災についての関心が高まり、自助・共助による減災への認識が深まるきっかけを提供することが出来た。</li> <li>・自主防災組織からの講師依頼及び学校教育現場(中・高等学校)からの「命について」「防災教育」等の講義を求められた。</li> </ul>				

No	支援金額	事業名		活動期間
	活動形態	活動場所	主な活動者	主な支援対象者
2	333,180円	盛岡なでしこ・お茶っ健康相談サロン		H24年4月1日～H25年12月31日
	地元定着型	岩手県山田町	看護職 10名	仮設住宅居住者
<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮設住宅の方の健康状態や生活環境の変化について継続的な支援。</li> <li>・『盛岡なでしこ・お茶っ健康相談サロン』を開催し、心、身の健康面の相談や、食事指導・健康維持・リフレッシュのための支援を行った。</li> <li>・住民同士が顔を合わせ交流の場を持つことで新しい地域コミュニティづくりにも貢献できている。</li> <li>・14回開催、参加人数は1回17名～22名。</li> </ul>				
3	2,000,000円	被災者へのフィットネスサロン事業		H24年10月1日～H26年1月31日
	地元定着型	宮城県多賀城市、塩釜市、仙台市、および宮城県内の市区町村	看護師2人、看護職以外6人	被災地に住民
<ul style="list-style-type: none"> <li>・バランスボールを使った有酸素運動による健康の維持、増進。</li> <li>・震災後のストレス、生活環境の変化によるうつ状態、精神的不安の軽減。</li> <li>・コミュニケーションとなる、居場所作りの提供、ロコモティブシンドロームの予防、腰痛緩和</li> <li>・平成24年度の月平均利用者数:100人、活動回数:18回、平成25年度の月平均利用者数:120人、活動回数:78回</li> </ul>				

## 公益社団法人 2件

No	支援金額	事業名		活動期間
	活動形態	活動場所	主な活動者	主な支援対象者
1	1,262,500円	まちの保健室		H24年4月1日～H26年3月31日
	地元定着型	1岩手県盛岡市復興支援センター 2岩手県宮古市グリーンピア三陸宮古	看護師10名、保健師1名、助産師1名	盛岡市近郊に避難している住民、仮設住宅入居者
<ul style="list-style-type: none"> <li>・心身の健康支援を通して避難している住民同士をつなぎ、前向きに自分や家族が健康的な生活が送れるよう支援した。</li> <li>・健康相談血圧測定、体脂肪測定、ハンドマッサージ、軽体操、転倒予防体操</li> <li>・平成24年度、開催回数、週2回 1回平均利用者数8名、健康講座開催、2回、計140名参加</li> <li>・平成25年度、開催回数、週2回 1回平均利用者数7名、健康講座開催、2回、計120名参加</li> <li>・集会所で「まちの保健室」を開催し、健康的な日常生活が送れるような支援に努めた。</li> <li>・平成24年度、開催回数、月1回 1回平均利用者数18名、平成25年度の開催回数、月1回 1回平均利用者数12名。</li> </ul>				
2	2,000,000円	訪問看護ステーション再建事業		H25年12月～H26年3月31日
	訪問看護ステーションの再建	福島市及び二本松市	7名(看護職)	震災及び原発事故により被災し避難している浪江町民
<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員を採用し、福島市のほか二本松市を活動地域に組み入れ訪問を実施。</li> <li>・元浪江訪問看護ステーションの訪問看護師を雇用し訪問看護実施。</li> <li>・社会福祉協議会のケアマネジャー、浪江指定居宅介護支援事業所からの紹介があり、サービス利用者や家族からは大変喜ばれている。</li> <li>・浪江町では住民の帰還のめどが立たず、地元での再開は現在のところ不可能のため、今後もこの体制を継続し支援者を拡大していく予定。</li> </ul>				

## 株式会社 2件

No	支援金額	事業名		活動期間
	活動形態	活動場所	主な活動者	主な支援対象者
1	2,000,000円	訪問看護ステーション再建事業		H24年4月1日～26年3月31日
	訪問看護ステーションの再建	宮城県 仙台市 若林区	看護師 6人	精神障がい者、高齢者
<ul style="list-style-type: none"> <li>・心身の悩みや精神的障害をもった患者に対し、H23.10月に若林区に開設した。</li> <li>・主に精神障がい者に対するケアを行い、H25.1月には泉区にサテライト事業所を設置した。</li> <li>・訪問内容は状態の観察・医療的処置・在宅でのリハビリテーション・生活環境の改善・傾聴など</li> <li>・平成24年度は月平均259回訪問、平成25年度は月平均410回訪問した。</li> </ul>				

No	支援金額	事業名	活動期間
	活動形態	活動場所	主な活動者
			主な支援対象者
2	2,000,000円	訪問看護ステーション再建事業	H24年4月1日～H26年3月31日
	訪問看護ステーションの再建	岩手県大船渡市	看護サービスの必要な高齢者及び障がい者
<p>岩手県大船渡市を中心に近隣の市町村にお住まいの在宅看護者に対し訪問看護サービスの提供を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成24年度 月平均利用者数17名 月訪問回数平均284回</li> <li>・平成25年度 月平均利用者数28名 月訪問回数平均444回</li> </ul>			

## 大学 2件

No	支援金額	事業名	活動期間
	活動形態	活動場所	主な活動者
			主な支援対象者
1	500,000円	看護技術を用いたりラクゼーション事業 一足湯・タッチングケアでこころもからだも ぽっかぽかー	H24年4月1日～H26年3月31日
	イベント型	福島県いわき市小名 浜地区	看護福祉大学看護 福祉学部学生及び 教員、学生39人教 員6人計45人
<p>原発事故により避難中の住民 震災により被害を受けた地区の住民</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティの場づくりの一環として足湯・タッチングケアを実施した。</li> <li>・被災者同士では語れない心の声に耳を傾け、対象者の心を軽くする手段としてだけでなく、対象者が自己の健康状態を把握し健康な暮らしを維持する方法を身につけることができるよう支援した。</li> <li>・活動回数 4回、6日間</li> </ul>			
2	500,000円	震災避難による妊産褥婦及び乳幼児支援 プロジェクト	H24年4月1日～H26年3月31日
	イベント型	茨城県東海村及び阿 見町	助産師10名 看護学生20名
<p>1福島第一原発事故により茨城県へ避難している 妊産褥婦及び乳幼児に家族 2茨城県で被災した住民</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県外からの避難者も多く、震災被害の大きかった県北・県南地区の2か所で震災復興支援コンサートを企画実施した。</li> <li>・参加者は1回目、約170名、2回目は約100名</li> </ul>			

## 合同会社 1件

No	支援金額	事業名	活動期間
	活動形態	活動場所	主な活動者
			主な支援対象者
1	2,000,000円	訪問看護ステーションの再建事業	H24年4月1日～H26年3月31日
	訪問看護ステーションの再建	岩手県遠野市	5人(看護職4人、看 護職以外1人)
<p>被災した住民 (約160世帯が仮設)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅利用者からの強い要望により、震災後まもなく開設できた。</li> <li>・平成24年度の月平均利用者数:30名、訪問回数171回、平成25年度の月平均利用者数:32名、訪問回数150回</li> </ul>			

## 特別養護老人ホーム 1件

No	支援金額	事業名	活動期間
	活動形態	活動場所	主な活動者
			主な支援対象者
1	300,000円	歌謡ボランティア	H24年4月1日～H26年3月31日
	イベント型	特別養護老人ホーム	看護師2名 CM1名 その他2名 他ボラ ティア(医師1)
<p>特別養護老人ホーム、入所者および職員など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原発事故の避難対象外となった入所者100名の活性化・健康支援として、週1回の診療時に歌謡教室ボランティアを開催</li> <li>・肉体的、精神的にも事業継続が厳しい環境で、安らぎと希望とユーモアを与えてきたと思える。</li> </ul>			

## 公益財団法人 1件

No	支援金額	事業名		活動期間
	活動形態	活動場所	主な活動者	主な支援対象者
1	2,000,000円	訪問看護ステーション再建事業(人材確保、事業複合化、大規模化など)		H24年4月1日～H26年3月31日
	訪問看護ステーションの再建	宮城(県)多賀城市、塩釜市、仙台市宮城野区・太白区・泉区、大崎市、(対象者は気仙沼市、石巻市、七ヶ浜町、仙台市若林区、名取市を含む)	看護職 12人	震災の被災により、状態が悪化した方や新たに訪問看護の必要が生じた高齢者・障害者
<ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介業者を活用し正職員3名、パート看護師6名を採用。</li> <li>・日常的な人材確保のため訪問看護ステーションのパンフレットを作成。</li> </ul>				

## クリニック 1件

No	支援金額	事業名		活動期間
	活動形態	活動場所	主な活動者	主な支援対象者
1	1,000,000円	ネットワークの力で地域のお母さんと赤ちゃんを支えよう		H23年5月～継続的に
	地元定着型	宮城県塩釜市、多賀城市、松島町、七ヶ浜町、利府町	事務局8人内訳:助産師8名(総合病院1名、有床診療所5名、開業助産師3名)	塩釜地区と周辺に住む母子及び家族
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットワーク会議の開催 1回/月計24回開催災害時における対策検討(チェックリストの作成及び運用、アクションカードの作成、防災グッズ内容の共有、母子保健ネットワーク連絡票の作成及び運用、大災害時の備え～赤ちゃんとお母さんの安全安心のしおり作成)</li> <li>・助産師子育てクラブの開催平成25年3月より開始計9回開催、ベビーマッサージ指導及び育児相談会を兼ねたお茶会の提供 生後2ヶ月から6ヶ月までの親子対象合計83組の親子が参加</li> <li>・地域の助産師、看護師向けに研修会の開催平成24年3月より計6回開催</li> </ul>				

## 母乳育児相談 1件

No	支援金額	事業名		活動期間
	活動形態	活動場所	主な活動者	主な支援対象者
1	2,000,000円	母乳育児支援を1人でも多く受けられますように		H24年4月1日～H26年3月31日
	地元定着型	母乳育児相談室	助産師1名	妊婦・乳児とその母親
<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談料金の一部助成。利用者の負担を軽減した。</li> <li>・2000円の助成を298名/1000円の助成を1254名</li> <li>・母乳育児の勉強会「おっぱいサロン」を15回開催で76名参加</li> </ul>				

### Ⅲ. 東日本大震災復興支援事業の今後の課題

震災後 4 年が経過した。復興の長期化に伴い、被災者の健康課題が複雑化・多様化し、コミュニティに関する問題や避難住民の避難生活の長期化に関する問題など、被災地における課題が多角的に絡み合い、より複合的な支援が必要とされている。復興支援においては、被災地のニーズを尊重しつつ、自立に向けて医療基盤が回復できるような、中長期的な支援のあり方・方向性を考えていく必要がある。

今年度実施した被災地域の看護職員の状況調査から、被災地での看護職不足は続いていること、とくに福島県沿岸部における人材不足の現状がわかった。また、福島県では採用における新卒看護職の割合が高く、新卒看護職の離職防止、定着・育成支援、また原因教育を充実し支援する仕組みが重要になる。

引き続き、被災地における人材確保・定着・育成に力点を置いた支援を展開していく。

### Ⅳ. おわりに

日本看護協会は、被災地で脅威の体験をされてもなお、その地で踏ん張る看護職に敬意を表するとともに、中長期的支援の立場を表明している。看護職としての生きがい、やりがいを持って働き続けられる環境整備に向けての支援を継続していく。

復興支援事業は、平成 27 年度までの 5 年を区切りとして評価し、平成 28 年以降、次なる 5 年間でどのように取り組むのか、岩手県・宮城県・福島県看護協会と協同し、被災地のニーズに応える新たな支援方針を検討する。



## 參考資料

---

---

---



## 日本看護学会学術集会への参加支援アンケート

この度は、日本看護学会学術集会参加支援事業にご参加いただき、ありがとうございました。  
 今回の学会参加について、アンケートのご協力をお願いします。今後の支援の参考にさせていただきたい  
 と思いますので、ぜひ皆様のご意見をお聞かせ下さい。

【該当するものに、○をつけてください】

問 1. これまで日本看護学会に参加したことはありますか？

1 ある

2 ない



あると答えた方は、開催場所について該当する番号に○をつけてください。

1 県内

2 県外

問 2. 東日本復興支援ブースでの発表について(複数回答可)

1. 自分の看護実践を考える機会となった
2. 被災地の現状や、自分の看護実践について伝えることができた
3. 他の地域の人と話をし、情報交換ができた
4. 関心をもって聞いてもらった
5. 他の人の発表を聞いて、内容や発表の仕方など参考になった
6. このような機会をもっと設け、多くの人に被災地のことを伝える必要がある
7. 機会があれば学会でも発表したい
8. 被災地以外の人への関心は低くなっている
9. 震災を思い出し、つらかった
10. その他

(

)

問 3. 学会で得られた知識を、今後どのように生かしていきたいですか？(複数回答可)

1. 自身の看護の知識や技術の向上
2. 患者や利用者のケアや支援の実践
3. 自施設での教育や指導に役立てたい
4. 自施設の業務の見直しをしたい
5. 更に知識を深めるために、研修や勉強会に参加したい
6. 看護研究に取り組んでみたい
7. 学会参加を職場の人にもすすめたい
8. 今後の自身の方向性に生かしたい
9. その他

(

)

**問 4. 学会に参加して、どのように感じましたか？ 以下の項目について、1~4 の中で最も該当する番号1つに○をつけてください。**

1. 最新の情報が得られた	4	3	2	1	4 とてもそう思う
2. 興味のある内容を聞くことができた	4	3	2	1	3 まあそう思う
3. スキルアップにつながった	4	3	2	1	2 あまり思わない
4. 日頃の自分の活動を振り返ることができた	4	3	2	1	1 全く思わない
5. 活動の視野が広がった	4	3	2	1	
6. 自施設以外の人と話ができ、情報が得られた	4	3	2	1	
7. 違う土地に来て、気分転換になった	4	3	2	1	
8. 仕事に対して意欲がわいた	4	3	2	1	
9. 看護職として学び続けることが必要だ	4	3	2	1	
10. 今後も学会への参加支援をしてほしい	4	3	2	1	

**問 5. 懇親会に参加して、どのように感じましたか？**

1. 震災時の情報を共有できた
2. 他の地域の看護職と話ができ、励みになった
3. 看護の良さを改めて認識した
4. 人と話をする事で振り返りができた
5. このような機会をもっと設けてほしい
6. 震災を思い出し、つらかった
7. その他

( )

**問 6. 今回の学会参加について、後日、自施設等で報告や伝達する機会がありますか？**

1. ある                      2. ない                      3. 未定



あると答えた方は、どのような場所ですか？

1. 自施設                      2. 県看護協会                      3. 院外（地域など）での報告会

4. その他 ( )

**問 7. 今後参加支援をしてほしい日本看護学会の領域に、○をつけてください。**

- |               |          |          |         |
|---------------|----------|----------|---------|
| 1. ヘルスプロモーション | 2. 慢性期看護 | 3. 看護教育  | 4. 看護管理 |
| 5. 在宅看護       | 6. 精神看護  | 7. 急性期看護 |         |

**問 8. 今後、日本看護協会や復興支援事業に期待することがありましたらご記入下さい。**

## 日本看護学会-在宅看護-学術集会

### 東日本大震災復興支援事業交流集会「3.11 から今-そしてこれから」アンケート

この度は、交流集会「3.11 から今-そしてこれから」にご参加頂きありがとうございました。今後の支援の参考にさせていただきたく、アンケートのご記入にご協力下さい。該当するものに、○をつけてください。

あなた自身についてお聞かせ下さい。

- 職種 : 看護学生 保健師 助産師 看護師 准看護師  
 ■年齢 : 20代 30代 40代 50代 60代以上  
 ■現在勤務している所属先の都道府県名 : ( )

#### 1. 本日の交流集会に参加した理由は何ですか。(複数回答可)

- 1) 発表者の実践報告が聞きたかったため  
 2) 被災地の看護の現状を知りたかったため  
 3) 被災地域に勤務しているため  
 4) 被災地支援について関心があったため  
 5) 自分が支援を行うための参考にしたいため  
 6) 災害時の対応について知りたかったため  
 7) その他

#### 2. 内容はいかがでしたか。(複数回答可)

- 1) 被災地で実践している看護職の活動がよくわかった  
 2) 被災地を支援している他の地域の看護職の支援活動がよくわかった  
 3) 被災地の課題がわかった  
 (具体的には )  
 4) 今後の災害時の参考にしたい内容であった  
 (具体的には )  
 5) 期待していた内容と違った  
 (具体的には )  
 6) その他  
 ( )

#### 3. 今後被災地の看護職に向けて、どのような支援が必要とお考えですか。

#### 4. その他 ご意見・ご感想など自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました  
 日本看護協会 東日本大震災復興支援室

平成 26 年度東日本大震災復興支援事業実施報告書

---

発行日 2015 年 3 月 31 日  
編集 公益社団法人 日本看護協会 健康政策部  
発行 公益社団法人 日本看護協会  
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-8-2  
TEL 03-5778-8831(代表)  
FAX 03-5778-5601(代表)  
URL <http://www.nurse.or.jp>

---

※本書からの無断転載を禁じる